

ブラジルの
“多年度計画 2000-2003”

— 要約と解説 —



JICA LIBRARY

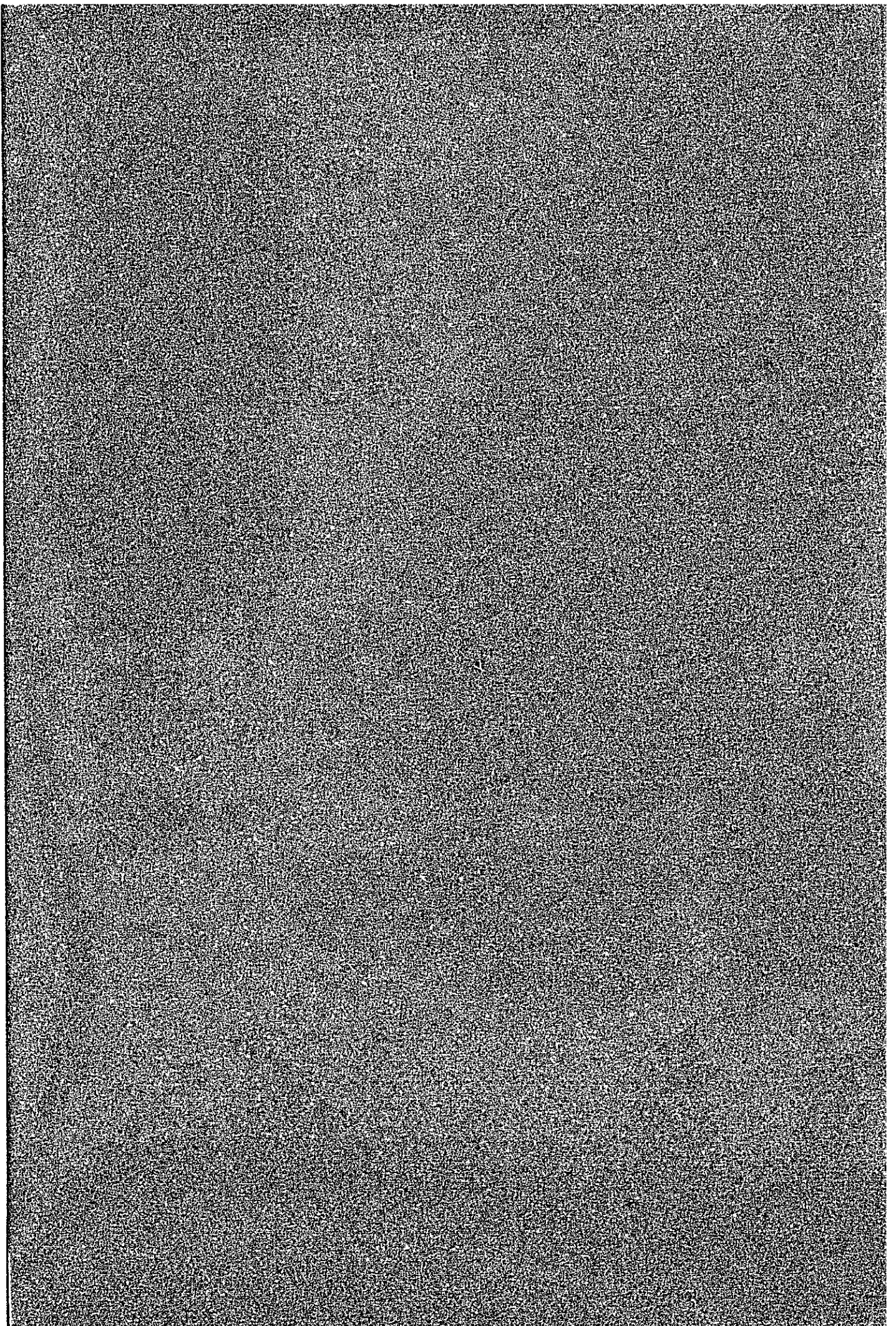


J1163398{9}

国際協力銀行(JBIC)
リオデジャネイロ駐在員事務所

国際協力事業団(JICA)
ブラジル事務所

2000年3月



—目 次—

はじめに	1
第Ⅰ節 多年度計画(PPA)とは何か	3
1. 憲法上の規定	3
2. 策定のプロセス	3
3. AxesとPPAと2000年度連邦予算	3
<参考コラム>Brazil in Action	6
第Ⅱ節 多年度計画の概要—支出計画規模と分野別の配分	8
第Ⅲ節 多年度計画の基本思想と構想	11
1. 戦略的な基本目標	11
2. 目標を達成するための政策対応と手段	12
3. 開発行政のあり方の抜本改革にむけての実験	14
4. 期間中のマクロ経済のシナリオ	16
結びに代えて	18

資料編

資料1:戦略指針(Diretrizes Estrategicas)とマクロ目標(Macro-objetivos)	19
資料2:Axesの概要	30
資料3:Axesのプロジェクト一覧	35

* 本稿中、意見に互る部分は筆者の個人的見解ないし解釈であって、筆者の所属する機関の見解では必ずしもないことをお断りしておく。



1163398[9]

はじめに

ブラジル政府は1999年8月31日、憲法の規定に則り、2000～2003年の4年間を対象とする多年度計画(Plano Plurianual-PPA)および2000年度連邦予算案を発表、議会に法案の形で提出した^(注)。多年度計画は2000年1月からスタートする。

(注)本来は当該対象年度の開始前に議会承認されるべきものであるが、諸事情から越年してしまったため、本資料は議会承認前の段階のものであることを予めお断りしておく。

多年度計画(以下「多年度計画」ないし「PPA」と呼ぶ)は、4年間に各種プログラムを通じて約1兆1130億リアル(約6100億ドル)の支出を見込み、インフラの拡充、社会・地域格差の是正等、大統領の再選キャンペーン中の公約を果たさんとするものである。

多年度計画およびそのベースとなった開発調査“Estudo de Eixos Nacionais de Integração e Desenvolvimento”(Study of National Axes of Integration and Development—以下この開発調査を指して‘Axes’と呼ぶ)は、第2期カルドーゾ政権の経済・社会開発政策の基本的な方向性を示すものであるのみならず、開発行政の在り方の見直しまで含めた「国家運営の舵取り」についての考え方の実験の場にもなっている。今後ブラジルとのつきあいを考えていくうえで、短期のマクロ経済政策およびその指標をウォッチしていくことはカントリーリスク管理の観点から重要であることは多言を要しないが、それと並んで、この中長期的な開発戦略を研究しておくことが不可欠と考えられる。

本稿の目的は、日本としても関心をもつべきPPAとは何かについての詳しい知識・情報を提供すること、およびブラジルの提示する投資機会・ビジネス機会に対して日本の各界要路に少しでも関心を向けていただくこと、にある。複雑に入り組んだ構造になっており、非常に分かりにくいことも確かであり、PPAイコール投資計画と誤解する向きもあるし、ブラジルの新聞にもAxesとPPAを混同した記事が散見される。国際協力銀行(JBIC)リオデジャネイロ駐在員事務所と国際協力事業団(JICA)ブラジル事務所では、広く日本の関係先に知ってもらおうべく、この計画を日本語で分かりやすく整理して提供することは有意義であると考えた。また、その要約・解説を作成することは、旧OECDと旧輸銀が統合したJBICおよびJICAと云う日本の海外経済協力“3機関”が行なう作業として相応しいと考え、JBICリオデジャネイロ事務所およびJICAブラジル事務所で共同して取り纏めた次第である。本稿は、PPA(の法案)そのものの「翻訳」ではなく、PPAおよびAxesに即してブラジル政府の考えている開発戦略・政策を一部抄訳も交えて「解説」したものであることをお断りしておく。基本的に、PPAが拠って立つ考え方、哲学、時代文脈について筆者なりに整理・解釈した解説、および具体的個別プロジェクトに関する情報提供、の二本立てとなっている。

全体の構成としては、第Ⅰ節でPPAの法的根拠およびAxesとの関連等を中心にしてPPAとは何か、を説明する。次に第Ⅱ節で、PPAの概要、とくに支出計画について紹介する。第Ⅲ節では、PPAの基本的な枠組みないし基本的な考え方やアプローチについて考察し、マクロ経済との関連についても触れる。末尾には、資料として、Axesに含まれるプロジェクトのリストを掲載したので参考にしていただきたい。本作業が、日本とブラジルの対話のきっかけとなり、日伯経済関係活性化に些かなりとも貢献できれば、筆者としてこれに勝る喜びはない。

本稿の取り纏めにあたり、ブラジル政府内での指令塔としてPPA作成過程の総指揮にあられた企画・予算・管理省(Ministry of Planning, Budget and Administration)の José Paulo Silveira 企画・戦略投資局長には、筆者の質問・依頼に対し、都度懇切丁寧に対応していただき、様々な資料を頂戴した。記して感謝を申し上げる。

資料3: Axes のプロジェクト一覧の見方

- ① プロジェクト名に続く()内の数字はマネージャー名簿の数字に対応しています。
- ② 表題及びプロジェクト名に続く[]内の数字は必要融資額を示しています。 単位:100万米ドル
- ③ 各 Axes の表題「運輸」に続く[]内数字は、運輸・エネルギーの必要融資総額を示しています。
- ④ 東北枢軸内の「水資源」については必要融資額未入手

第 I 節 多年度計画(PPA)とは何か

1. 憲法上の規定

1988年憲法の第VI編第II章「公共財政」の項にある第165条は、「行政府の発議に基づく法律は以下のものを定める」として、①多年度計画(PPA)、②予算編成指針(Lei de Diretrizes Orçamentarias-LDO)、③年次予算(Orçamento Geral da União)、を挙げている。すなわち、PPAの策定・議会承認は憲法の要請による。また、法律の規定により、PPAについては政権発足の年に策定、議会承認を得て次年度からスタートし、次期政権の初年度までを対象とすることとなっている。第2期カルドーゾ政権は1999年1月～2002年12月であるため、多年度計画は2000年1月～2003年12月が対象となる。今回はカルドーゾ政権では2回目のPPAとなる。

2. 策定のプロセス

今回は4年間の計画(PPA)策定に先立って、そのベースになるものとして2000～2007年を対象とする長期の国家開発ビジョン(Axes)が策定された。

入札で選ばれたBooz-Allen & Hamilton、Bechtel InternationalおよびABN-Amro Bankを中心とする国際コンソーシアムが政府との契約に基づき、また多くの大学や研究機関の協力を得て徹底的な開発スタディーを実施、数多のプロジェクトを分析・評価、さらにプロジェクトの組み合わせによる全体としてのシナジー効果も考慮して、最終的に9つの大きな開発地域(axes)を対象として今後8年間に不可欠と考えられるプロジェクトを選定した。

約2年半に及ぶ作業の間、企画省とBNDES(国家経済社会開発銀行)が地方政府/産業界/民間団体等と30回弱の会合を開いて調整し、最終的に取りまとめたのが、“Axes”と呼ばれる開発調査である。このなかで取り上げられた官民の投資プロジェクトがPPAのベースとなっている。

3. AxesとPPAと2000年度連邦予算

(1) Study of Nacional Axes of Integration and Development ('Axes')

axisとは、歴史的・文化的背景から一定のアイデンティティを有し、資質・特性といった点でもある程度の共通性を持つ地域を指し、経済・社会開発、国家統合と言う観点から全土を9地域に分類したもの(資料2. の地図参照)。開発地域(Development Regions ないし Zones)と同義と理解してよい。axisの概念は前回のPPAで初めて取り入れられたもので、その特徴は州境等の行政区分は取り敢えず無視して国の経済地理や財・サービスの流れ(物流)に着目して地域格差問題を新しい視点から捉えようとするところにある^(注)。従って、9つの地域の境界は、州境とは必ずしも一致しない。

(注)リオドセ社の元社長Eliezer Batista氏が90年代初頭、コロール政権の戦略庁長官のポストにあつて、かかる観点からの研究を始めたのが発端。

ブラジルの抱える大きな問題(開発へのボトルネック)を同定し、これを解決するのにどうい
うプログラムが必要かつ効果的かを検討、さらに各地域の資質・特性(ポテンシャル)を最大
限に生かすという視点で詳細に検討・分析したうえで、経済を持続可能な発展の軌道に乗せ
るため、現政権の担当期間を大きく超える、2000～2007年の8年間という長期のタイムス
パンのなかで構造的に不可欠と考えられるプロジェクトを総体として提示するものである。

上記の観点から約820のプロジェクトが検討され、プロジェクトの乗数効果および投資誘発
効果、すなわちある地域の投資が他の地域のプロジェクトを誘発するとか、あるプロジェクトが
実施されることで別の関連プロジェクトの効果が高まるといったプロジェクト間のリンケージあ
るいはインターフェイス、経済・社会開発を加速するポテンシャルという観点から最終的に35
8のプロジェクトを優先扱いとした(資料3参照)。

この開発調査では、持続可能な開発への道筋を辿るのに不可欠と考えられる4つの分野
(①経済インフラ[運輸、エネルギー、通信]、②社会開発[教育、保健、上下水道、大衆住宅]、
③環境保全、④情報・知識)において8年間で官民合わせて1800億ドルの投資を不可欠と
考えている。うち、平均で約50%を民間資金に期待。また、経済インフラが1063億ドル(5
9%)を占める(Axesの概要は資料2参照)。また、環境保全を単にコストとしてのみ観るので
なく、投資機会として捉える視点を出している。国家開発の長期的・戦略的なビジョン、今後ブ
ラジルの開発政策の進むべき道筋を現政権のプロポーザルとして提示するものであって、法
的拘束力はない。内外の民間のみならず州・市等の地方自治体に対しても広く投資・企画の
機会を提供するという趣旨のものであり、官民の投資の意思決定を持続可能な開発という目
標に向けて誘導(収斂)させていくことを主たる目的としており、その意味においてindivative
なplanningと云えよう。したがって、これを「連邦政府の投資計画」と考えるのは必ずしも正し
くない。ただ、連邦政府が何を必要と考えているかはここによく表われている。

この調査(Axes)をベースとして、政府は向こう4年間(2000～2003年)を対象とするPP
Aを策定、議会に提出した。既述のとおり、前回のPPA策定時(1995年)からaxesの概念は
導入されたが、今回はこれほど詳細なものは作っていない。今回はこの5年間でインフレの収
束・安定化に成功したという背景があって、長期の企画が立てやすくなったということも背景と
してあろう。

(2) 多年度計画(Plano Plurianual; PPA)

PPAは2000～2003年の4年間を対象とする。連邦政府の広い意味での開発戦略を今
後4年間に互る、連邦その他あらゆる資金ソースを動員しての支出見通しの総額およびその
分野毎の政府目標と資金配分と云う形で提示するものである。PPAと連邦予算は連邦議会
での審議・承認を要する^(注)。したがって、承認後は、法的拘束力を有する(8年間を対象とす
るAxesは議会承認の対象とはならない)。

(注) 歴代の政府はほとんどがそれぞれの開発計画を策定してきたが、議会承認は経ていない。88

年憲法が行政政府の多年度に互る支出計画の策定・議会送付を義務付けた背景には、21年振り

の民政復帰(85年)を機に、行政府の支出活動を議会のコントロール下に置き、議会の復権を図らんとする強い意向が働いたと云われている。また、PPAは法律として議会承認されるため、各プログラムの金額は4年分について一括承認を受けるが、実際の支出のコミットは年次予算で1年間のみについて与えられる。

一般に“Avanço Brasil”とも呼ばれるのは、今回の多年度計画を指す。1998年のカルドージ大統領の再選活動における公約が、‘Avanço Brasil’であり、今回その公約を形にしたという趣旨を込めてPPAの(広報用の)呼称とした。

(注) ‘Avanço Brasil’とは、企画省によれば、「進めブラジル」という命令形でもなければ、「前進するブラジル」という平叙文でもなく、「皆で一緒に進もう(Let's go ahead together!）」といった気持ちを込めているとのこと。

2000～2003年の4年間で約1兆1130億レアルの支出を計画し、全体で365のプログラムから成る。このなかには、資本支出も当然計上されているが、経費支出が大きなウェイトを占める(全体の1/3は年金の支払い)。ここに含まれる投資プロジェクトは基本的にAxesから来るが、PPAには上記Axesの4つの分野のみならず、(州・市や民間との連携に補完される形ではあるが)連邦政府の行なうすべての支出行為が含まれている。従って、8年間を対象とするAxesの前半4年分がそのままPPAということでは決してなく(Axesの前半4年間の連邦の支出計画はすべてPPAに織り込まれているが)、PPAとAxesは峻別して考えることが必要である。現地新聞等にはPPAを「多年度投資計画」と称する記事も見られるが、これを投資計画と呼ぶことはミス・リーディングである。

(3) 2000年度連邦予算案

PPAにおいて政府の意図するところ(戦略)を2000年度という特定の会計年度に関して支出の承諾を与えるもの。4年間の総枠(1兆1130億レアル)のなかで毎年年次予算の形で調整される。連邦政府の資金のみを対象とし、社会保障費、政府系企業の投資も含まれる。PPAの思想は予算策定ガイドラインであるLDOを介して年次予算に反映され、実行に移される。PPAが資金配分にかかる中期見通しとすれば、予算は単一年度に係る具体的な支出のコミット。政府によれば、今回はPPAと年次予算の整合性に特に意を用いたとしている。すなわち、PPAに掲載されているプログラムは具体的なアクション、プロジェクトの形に変えて必ず予算(案)に計上されている。これによって、企画と実行の整合を図ることを目指している。

(参考コラム)

Brasil em Ação (Brazil in Action)

カルドージ政権第1期目には「Brazil in Action」というプログラムがあった。これは前回PPA(1996～1999年を対象)のなかから特に優先度・戦略性の高いプロジェクトを42案件抽出したものである。

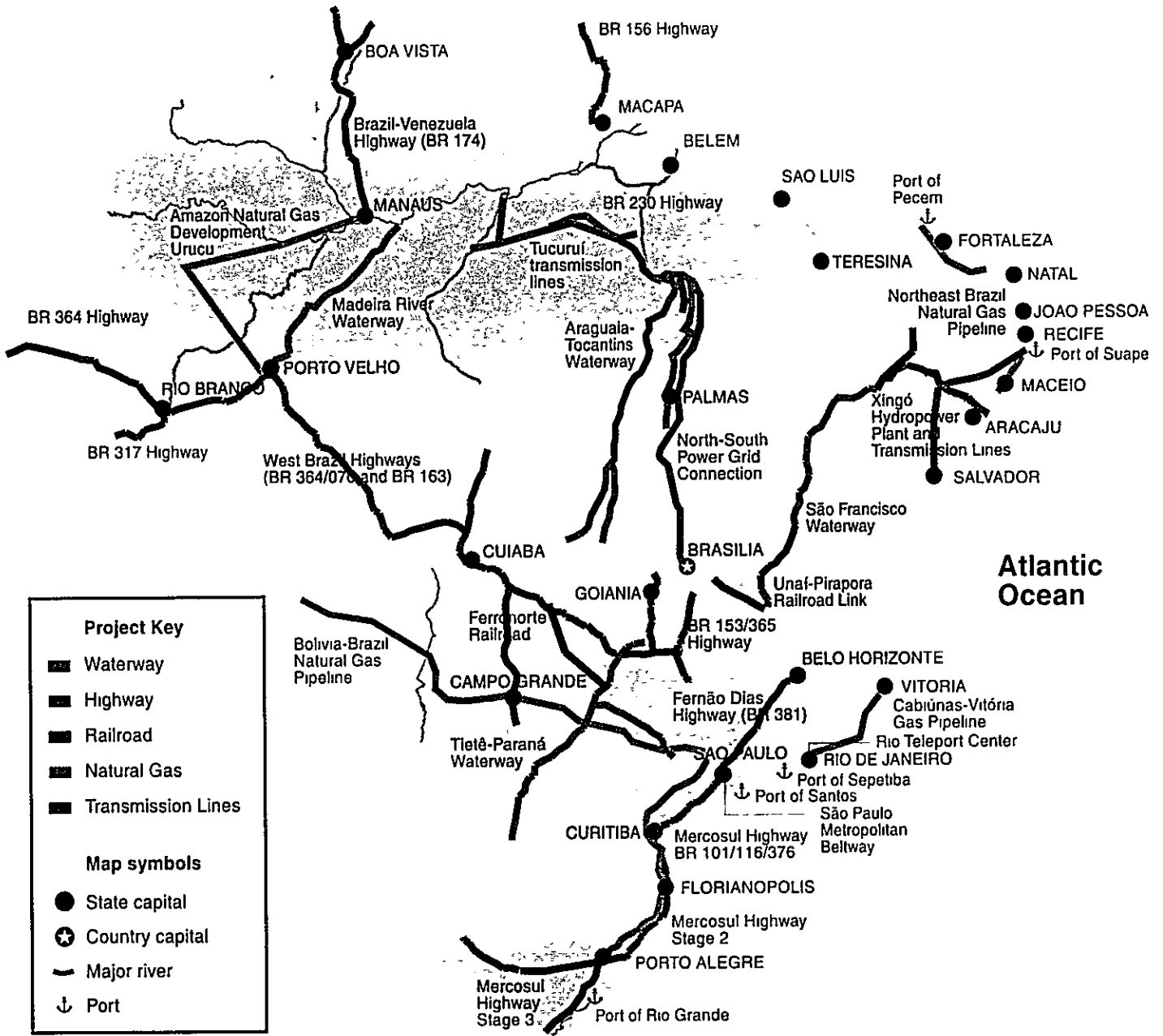
「Brazil in Action」はPPAの一部を抽出したものであって、イコールPPAではない。今回の「Avança Brasil」はPPAそのものを指し、「Brazil in Action」と「Avança Brasil」は次元の異なるものであり、前者のアナロジーで後者を理解してはならない。

1995年のカルドージ政権発足にあたり、プロジェクトの計画・実施の方法論に関して抜本的な改革が必要と考えられた。在来の官僚主導では迅速性・機動性(agility)に欠け、かつ政治的な圧力等から総花的になってしまい、結局どのプロジェクトも満足に進まないと言う悪弊を生み、たゞでさえ稀少な資源が万遍なく割り振られる結果、メリハリを欠いたものになっていたとの反省から、その解決策として考案されたのが、96年8月に開始された「Brazil in Action」であった。とくに戦略的意義の高い投資プロジェクトを42件(インフラ26件、社会開発関連16件)抽出し(次ページの地図参照)、各プロジェクトに推進責任者としてのマネージャーが任命され、実施期限、達成目標等が設定された。ファンディングについても、民営化、コンセッション、パートナーシップ等の形で民間に魅力的な投資機会を提供することによって、できるだけ民間の参加を誘うという基本哲学が貫かれた。

「Brazil in Action」はかつてなく高い案件進捗率を誇った。それは、プロジェクトをスケジュール通りに推進するためのプロジェクト・マネジメント上の工夫をしたことが重要な要素と云われているが、その最大のポイントはマネージャー制度(後述)の導入にある。

なお、1998年に「Brazil in Action 99」として、18件のプロジェクト(うちインフラ11件)が追加された。「Brazil in Action」の当初の42のプロジェクトのうち、99年末で26件が完成ないじ目標を達成した。拡大版「Brazil in Action」のうち現在実施中のプロジェクト、社会分野で継続的活動のものは、今回の「Avança Brasil」に引き続き取り込まれている。

The 'Brazil in Action'
Program



第Ⅱ節 多年度計画の概要

PPAとはすでに述べたように、今後4年間の連邦政府の支出枠と資金配分、すなわち4年間で合計1兆1133億レアルをどう調達し、どう配分するかを示したものである。365のプログラムの目標達成に向けて、民間および州・市等地方自治体の参加も含めてあらゆる財源を動員するという前提で作成されている。本節では、具体的な支出計画をみてみることにする。

第1表は、総額1兆1133億レアルの調達・用途を示したものである。調達面では税収・社会保障負担金が全体の3分の2を占める。支出を行政・司法・立法の三権に分けると、行政府関連が1兆1077億レアルと全体の96.7%を占め、これは以下の4つの大きなカテゴリーに分けられる。

- ① Programas Finalísticos……社会のニーズに直接応えること(国民に向けた財・サービスの提供)を目的としたカテゴリーで、行政府全体の91%を占める。以下の②～④は、行政に必要な費用支出で国民への財・サービス供給に必要な費用とは性質が異なる。
- ② 公共政策のマネジメント……公共政策の立案・調整・監督・評価に関連した政府行為にかかる支出(公共政策の管理監督費)。
- ③ Serviços ao Estado……政府機関から国家(State)自身へ直接提供される財・サービスにかかる支出。
- ④ Apoio Administrativo……行政府管理・庶務費用。連邦公務員の人件費も含まれる。

第1表 PPA(2000～2003)の資金調達と資金用途

(単位:百万レアル)

調達(財源)			用途		
		構成比		構成比	
税収・社会保障負担金	741,592	66.6%	司法府	28,604	2.6%
国営企業	117,572	10.6	立法府	7,701	0.7
パートナーシップ ⁽¹⁾	115,430	10.4	行政府	1,077,018	96.7
公的信用機関 (BNDES等)	96,507	8.7	Finalísticos	984,927	
ファンド(FAT, FGTS等)	32,248	2.9	公共政策の管理監督費	5,216	
Renúncia Fiscal ⁽²⁾	9,974	0.9	国家へのサービス供給	5,414	
			行政府運営費	81,461	
計	1,113,323	100.0	計	1,113,323	100.0

(1) 連邦資金に加えて、州・市、民間企業等からの財源。

(2) Renúncia Fiscalは、Fiscal Incentiveと裏返しの関係にある。あるプロジェクトのために政府がIncentiveを与えるということは、政府がその分の税収その他の収入を放棄すること(renúncia)を意味するが、その資金は企業の側に残り、プロジェクトに使われるため、これをプロジェクトの財源と見なすというもの。

第2表 PPA(1兆1133億レアル)の年度別配分計画

(単位:百万レアル)

2000年	248,886 (22.3%)
2001年	274,719 (24.7%)
2002年	289,452 (26.0%)
2003年	300,266 (27.0%)
計	1,113,323 (100.0%)

(注)議会が承認するのは4年間の総枠のみで、年度毎の配分は都度、年次予算の形で調整される。

第3表は行政府のなかの 'Finalísticos' のみの分野別内訳を示したものである。用途のうち、社会開発の項目のなかに多額の年金の支払が含まれているが、これは公共政策とは独立した性質のものなので控除したほうが政府の公共政策がよりよくイメージできる。これを除くと4年間の支出は6135億レアルとなる^(注)。

(注)Programas Finalísticos の総額9849億レアルから年金支払い(3722億レアル)を差し引くと6127億レアルとなり、第3表の数字(6135億レアル)とは若干不具合が見られる。第4表の総額は6127億レアルとなっている。

第3表 Programas Finalísticos(年金支払いを除く)の調達と用途

(単位:百万レアル)

調達		用途	
税収等	242,846	社会開発	212,847
国営企業	117,564	経済インフラ	212,017
パートナーシップ	115,339	情報・知識	15,537
公的信用機関 (BNDES等)	95,557	環境	3,353
ファンド(FAT, FGTS等)	32,194	生産セクター	134,838
Renuncia Fiscal	9,974	外交・国防	8,319
		市民生活	4,039
		その他	21,804
計	613,474	計	613,474

第4表は、(年金支払を除く)Finalísticosの分野別・地域別の配分計画を示したものであるが、すべてがいずれかの地域のプログラムに割り振られるわけではなく、全体の金額のうち、Regionalizationの対象となるのは2677億レアルである。

各地域について簡単にコメントすれば、まずアマゾニアは経済の開発度合いの低いことを反映して、経済インフラの比重が格段に大きい(約50%)。東北部は、広大な半乾燥地帯を抱えていることから、社会開発と並んで特に治水関連インフラに重点が置かれている。南東部

も東北部と同じく、社会開発に資金の51%が割り振られている。南部は、メルコスールの進展を享受できるように、経済インフラ(とくにエネルギー、運輸)の比重が大きい。

第4表 Programas Finalisticos(6127億レアル)の地域別・プログラム別資金配分

(単位:百万レアル)

	REGIONALIZATION						合計
	アマゾニア	東北部	中部・西部	南東部	南部小計	小計	
社会開発	8,852	33,466	8,841	44,430	16,353	111,942	212,847
保健							78,007
教育							36,172
住宅・都市問題							21,480
上下水道							6,852
労働・雇用							47,659
農地改革							4,501
スポーツ・娯楽							249
ソーシャル・ワーク							17927
経済インフラ	15,042	13,879	10,104	26,611	26,356	91,992	212,017
エネルギー							165,317
運輸							36,856
通信							6,313
治水関連		(3,237)				3,237	3,531
情報・知識	68	149	37	117	106	477	15,537
環境	177	1,061	316	129	60	1,743	3,353
生産セクター	6,098	9,369	4,656	15,174	13,336	48,633	134,838
農業							42,346
工業							24,742
商業・サービス							67,750
外交・国防							8,319
市民生活	133	204	145	189	82	753	4,039
文化							2,208
治安							1,044
法秩序/市民権							787
その他	1,767	4528	1786	812	78	8,971	21,804
合計	32,137	65,893	25,885	87,462	56,371	267,748	612,754

第Ⅲ節 多年度計画の基本思想と構想

ここでは、PPAが戦略的に目指す基本的な目標は何か、またその達成に向けて採るべき政策課題をPPAはどう認識しているのかについて、経済的側面に絞って政府資料等に基づいて筆者なりに整理を試みる。その課題を達成するために、あるいは政策を具体化したものとして数多くのプログラム/プロジェクトが選定されている。PPA推進にあたっての行政上の新しい試みも導入されているので、簡単に紹介する。

1. 戦略的な基本目標

PPAの究極の目標を、Axesの4つの分野や戦略指針^(注)等政府資料のなかから探っていくと、「持続可能な開発」という言葉が頻繁に現れる、恐らくこれの実現を究極の目標と考えることに異論はないと思う。そしてこの「持続可能な開発」の条件とは何かを考える際、経済の量的な成長(GDPの成長)は、少なくとも、①経済の安定、②社会的・地域的不均衡の是正、③生産性・競争力の向上、④環境との共生、を伴っていることが不可欠であろう。従って、究極目標達成のために、以上の4点が今後の政府の行為を方向付ける戦略的な基本目標と整理できるであろう。

(注)PPAの法案では、大統領からのオリエンテーション等も踏まえて、①大きな変革の方向性を示した戦略指針6項目(Diretrizes Estrategicas)および②セクター毎の目標を定めたマクロ目標28項目(Macro-objetivos)を説明しているので、参考までその試訳を資料1に紹介する。4年間で何を重要課題として取り組もうとしているかが窺える。

(1) 安定を伴った経済成長

安定とは国内外のマクロ不均衡を招来しない成長のあり方といってもよい。成長が著しいインフレ、国際収支上の不均衡、財政赤字の拡大等を伴う場合、長期に持続し得ないことは過去の歴史が示すところであり、長期安定にはフロー・ストック両面での財政の健全化が不可欠である。国内的な財政不均衡の是正は一方で国内利子率低減(→国債利払い額削減)の余地を開いて公的部門の貯蓄率の向上に繋がり、他方で成長に必要な投資率の引上げを外国貯蓄に過度に依存しない(すなわち経常収支赤字を広げない)形で可能にする。開発資金ファイナンスの外国資金依存度を下げることはブラジル政府が大きなプライオリティとしているところでもある。

(2) 所得分配の社会的・地域間不均衡の是正を伴った経済成長

成長はそれ自体が目的のではなく、所得機会・雇用機会を創出するものでなければならぬ^(注)。これまでの経済政策や歴史的経緯から、ブラジルの所得水準の地域間格差は著し

いものがある。進んだ豊かな南と遅れた貧しい北の構図は今も変わらない。現に東北部は周期的な旱魃にも見舞われ、ラテンアメリカでも最も貧しい地域のひとつとされている。持続可能な開発には、すべての地域がともに成長することが不可欠であり、地域間格差の是正については、政府の戦略のすべての局面において配慮がなされている。また、所得の社会的格差も激しく、ブラジルは世界でも最も所得分配の不平等な国のひとつに数えられ、貧困との闘い（開発成果のより公正な分配）は喫緊の課題である。政府の文書でも、ブラジルの所得分配・地域間格差の大きさについての深刻な関心が示されている。

(注) 所得分配の不平等が成長に如何にマイナスの影響を及ぼすか(逆に言えば、分配の改善が成長との好循環をもたらすこと)、東アジアでは成長と分配の改善の同時達成がいかんして起こったか、といった点については筑波大学の細野教授が詳しく論じている(日本輸出入銀行『海外投資研究所報』98年2月号)。

(3) 競争力・生産性向上を伴った経済成長

1980年代までの開発モデルの構造的破綻が言われるなか、90年にコッロ政権の打ち出した自由化・対外開放を柱とする産業政策は戦後のブラジルの開発戦略に極めて大きな転機を画し、同国経済に強烈なインパクトを与えた。従来の輸入代替型工業化過程においては外に対して閉ざされた市場を相手に(従って、輸出活動に対して国内活動の収益性の優位が保証されたなかで)品質・コスト・効率等へ配慮することなく企業は生産を続けることが許されたが、自由化・対外開放によって否応なくコスト・品質への対応を迫られた。競争力・生産性の強化が死活的な重要性を持つてくる。開放経済の時代になると、これまで財政事情からあまり手をつけてこなかった経済インフラを始めとする「ブラジル・コスト」の問題が顕在化し、そこでインフラ整備が喫緊の課題となってくる。

(4) 環境への配慮を伴った経済成長

都市生活環境にせよ自然環境にせよ、環境を無視した成長が持続可能な開発と相容れないことは説明を要しない。

2. 目標を達成するための政策対応と手段

(1) 経済インフラの整備

PPAでは4年間で年率4～5%の経済成長率を見込んでいるが、投資と並んで輸出が成長の原動力として期待されている。また、輸出拡大は政府の国家的命題ともなっている。世界市場での競争を戦い抜くためには、「ブラジルコスト」を低減して競争力を高めるためには、科学技術の振興と並んで経済インフラの整備が不可欠であり、PPAでもこの分野を極めて重要視している。

また、雇用と所得機会を創出し、地域格差を縮減する目的でも経済インフラの整備は重要

な施策となる。

(2) 知識・情報

寡占的国内市場であるがゆえに高コスト製品でも売れた時代とは大きく変わって今は世界に伍して競争できなければ淘汰される時代となった。「コスト・品質はともかく何とか造れる」というのでは最早国内市場ですら売れなくなる。

世界市場での競争を前提とした生産構造の改革が緊急の課題となり、コストを度外視して単に生産要素を投入して量的拡大を追うだけの成長はもはや持続不能となった。R&D、科学技術等の開発・振興が重要性を帯びてくる。Axesのなかで、敢えて「知識・情報」を持続的開発のための必須分野としているのも90年代に入ってから産業を取り巻くこのような時代文脈を反映してのことと思われる。知識・情報を生産過程に組み込み、製造過程の改善・効率化、新規商品の開発等、全要素生産性(Total Factor Productivity-TFP)の向上なしにはもう一つの大目標である輸出の拡大も望み得ない。経済発展にとって動態的外部性のある分野には政府としても介入・支援していく、という立場はコロールの産業政策にも明示的に表われているし、PPAでもその立場は変わらない。

(3) 国土開発軸(axis)の概念の導入

上記のインフラ整備とも関連するが、広大な領土を有するブラジルでは国家統合のための地域開発という発想は昔からあった。新しく導入されたaxesという概念とかつての地域開発との相違はどこにあるのか。従来は何々州のプロジェクトという風に行政単位毎の開発プロジェクトが基本であったが、axisの概念は既述したように州という発想は薄く、財・サービスの流れ(物流)に着目して各地域をいかに連結し統合していくかという観点に立って開発の地理的方向性を定めようとするgeo-economicなアプローチを強く出しているところにある。たとえば、同じ州の北部と南部が異なるaxisに属することもありうる。要は、どちらの方向に開発を進めていくのが、その地域の特性に合致し、かつ地域の問題を解決し、ポテンシャルを高めることに繋がるかという観点である。こういう視点から地域間格差を是正していこうとする考え方である。

(4) 社会開発プログラムの充実

Axesでは、教育・保健衛生・上下水道・大衆住宅の4つの分野、PPAでは加えて農地改革、ソーシャルワーク、雇用・労働等を挙げている。貧困階層に単に「施し」をするのではなく、マージナルな境遇にある階層をできるだけ市民社会に取り込んでいこうというのが基本姿勢。人的資本への投資と云う意味において外部経済性の大きさの点では、教育(とくに基礎教育)と保健衛生が重要であろう^(注)。技術訓練を含む基礎教育の改善は国民の雇用・所得機会を改善し、生産性の向上に繋がり、また個々人の社会参加の機会を高めることになる。

(注)先の細野教授の論文でも触れられているように、経済の生産性に資すること大きく、

東アジアで見られたような好循環をもたらす可能性が大きいとされている。

(5) 責任ある財政運営

安定を伴った経済成長を目指しているが、中長期的な安定には財政の(ストック・フロー両面での)再建が不可欠であり、成長を強く志向しながらも、歳出を歳入にマッチさせる政策を堅持するとしている。PPAでも2000年度予算案でも、98年11月に発表され、IMF支援要請の趣意書ともなった「財政健全化計画」の基本路線が貫かれており、フロー面ではprimary balance(国債利払い等の金融費用を除いた財政収支)の黒字維持は大前提とされ、ストック面でも公的債務/GDP比率は安定的に保たれることになっている。ただし、本格的な財政再建には現在議会審議中の各種改革案(税制改革、社会保障制度改革、財政責任法、行政改革等)の早期承認が不可欠であることは言うまでもない。

(6) 自然資源の活用・保全

AxesおよびPPAでは、ビジネス機会としての環境という切り口を提示している。単に保全するというのではなく、国立公園として、アマゾン等でのバイオ研究の宝庫として、またエコツーリズム等を通じて、保全しながらも活用し、そこに雇用と所得機会を創り出そうという基本的発想に立っている。かかる観点から各種の環境関連プロジェクトが構想されている。

(7) 民間イニシアチブの参加

上記(1)～(6)とはやや次元が異なるが、インフラ整備については民間ベースで極力事業を進めるというのが基本的な考え方。背景として、ひとつには財政上の制約、他方では国の役割の見直しという大きな時代の流れがある。開発のための投資は連邦政府だけの仕事ではない。これだけの規模の戦略投資を連邦政府単独ですべてファイナンスしきれるものではなく、連邦・州・市、国際機関、NGO、民間企業との連携・協働が不可欠である。可能な限り民間の資金を採りいれるというBrazil in Actionの基本哲学はここでも貫かれている。稀少な資源の配分に当たって、政府資金をより多く社会開発に振り向けていくために、経済インフラ等においてはBrazil in Action以上に民間イニシアチブの参加が不可欠としている。しかし、そのためには、よく指摘されるように、民間資金が入ってこられるような法的・制度的な環境整備(安定した「ゲームのルール」等)が不可欠であろう。

3. 開発行政のあり方の抜本改革にむけての実験

新しい開発パラダイムの構築には、資金を投入するだけでなく、どのようにプログラムを立案し、どのように資源を配分し、どのように各プロジェクトの遂行を担保していくかというプロセスに関する改革、すなわち公共支出の質の向上が不可欠であり、これは必然的に「行政のあり方」の改革に繋がっていくものであるが、PPAではいくつか新しい試みが導入されている。

(1) 予算策定過程の刷新(行政改革の手段としてのPPA)

かつての非効率な行政に代わって、迅速・効率的で問題解決能力を備えた「国家」となるためには、行政企画・実行の方法を変えなければならない。かかる課題設定に対して、今次PPAはその策定過程そのものがひとつの回答となっている。要は、国民のニーズに合っているかどうか、社会の具体的な問題から出発してそれを解決するためにどういう施策が必要かという観点からプログラムが選定されているわけであるが、プログラムの構築過程自体がPPAおよび予算案作成の大きな変化を示している。すなわち、解決すべき問題との関連性はあまり考慮することなく、政府の機能(教育、厚生、運輸等)に従って資金配分するこれまでの手続き——これを‘funcional-programatico’な分類と呼んでいる——に代えて、まず解決すべき問題は何か、社会のニーズは何か、それを充足するためにはどういうプロジェクトなりプログラムが必要かと言う観点からプログラムを構築し、プログラムに予算を割振る。次のステップとして便宜上の必要性から機能別(すなわち所轄の省庁別)に割り当てる。予算はあくまでプログラムに配分されるものであるため、大臣が勝手に、恣意的に、あるいは政治的に用途を変更することはできないとされている。

企画(企画省企画・戦略投資局)と予算(企画省連邦予算局)の緊密な連携により、各プログラムと基本的な方針との整合、プログラムと予算との整合等が厳密にチェックされ、また各事業所管省においてもプログラムの一貫性が検討され、整合性の検証されたプログラムのみがPPAに採用されていると政府は説明している。この説明に従えば、予算的な整合は過去のどの計画よりも高いということが言えるであろう。

慢性的な財政不均衡のなかで、公共支出の合理化/質的改善を図るため、政府がより少ない資源で近代国家としての機能を全うするための条件を創り出す方途を考えた結果が、地方政府や民間資本との連携であり、戦略的活動の優先的扱いであり、後述するマネージャー制度である。前回のBrazil in Actionで部分的に試みられ、今回のPPAから全プログラムに亘って導入される試みで、予算策定過程も含めてこれらは今回の最も重要なイノベーションと言ってもよく、いわば開発行政のあり方の変革をPPAを通じて成し遂げんとする意図がある。この実験の実行過程は今後よくフォローする必要はあるが、PPAを単に投資機会としての個別のプロジェクトをリストアップしたものというだけでなく、「行政の改革」の手段(instrument)としての側面を非常に強く持っていることを理解しておく必要がある。

(2) マネージャー制度の拡大適用

Brazil in Actionの経験から、政府は、インフラ・社会プログラムともに進展を得るにはプロフェッショナルなプロジェクト・マネージャーが鍵となるとの確信をえた。そこで、個別のプログラムの実施にあたっては、Brazil in Actionで初めて導入し、成果を納めたマネージャー制度を今回はPPAを構成する365の全プログラムへ拡大適用する(人選は99年10月にすべて完了)。

原則として一つのプログラムに1人のマネージャーが張り付く。マネージャーはプログラム所

轄省の大臣により任命され、プログラムを推進する責任とともにそれに伴う権限を付与される(プログラムの最終責任は大臣にある)。マネージャーと省庁中枢との間にはホットラインが設けられ、ボトルネック、キャッシュフローの問題、事業阻害要因等を同定し、案件進捗状況とともにこの中枢に報告する。ブラジリアでは、企画省チームが極力‘red tape’を回避・排除しつつ、必要に応じて他省とも協働してこれらの問題の解決に当たる。プログラムの進捗評価システムも導入される。予算をどれだけ消化したかよりも設定された目標をどこまで達成したかが重要であり、全体として、成果志向・結果志向・クライアント(=社会)志向の強い行政となることを目指している。企画予算管理省が全体のコーディネーションと評価に当たる。プロジェクトリスト(資料3)のあとにマネージャーの名前のリストを参考まで添付してある。

4. 期間中のマクロ経済のシナリオ

政府説明によれば、PPAは政府の「財政安定化計画」と整合的に構築されている。すなわち、「財政安定化計画」の枠組みのなかでマクロ経済シナリオを描き、それを前提として4年間の総資金量(税収等)のアベイラビリティを導出、支出をその範囲内に納め、所要の黒字を達成するように設計されている。PPAにおけるインフレ率/経済成長率の前提は以下のとおり;

(1)物価の安定

政府資料では、下記のように、卸売物価も含んだ総物価指数(IGP-DI)をベースにしている。99年の同指数の累積ベース上昇率(99年末と98年末を比較したもの)は20%近くに達しているが、ここで採用されている2000年6.07%の数値は2000年の平均と99年の平均を比較したものである(ちなみに、同じ方式による99年の物価上昇率は約11%)。

	2000年	2001年	2002年	2003年
IGP-DI (FGV)	6.07%	4.32%	3.45%	2.99%

(2)成長率

成長の原動力は、投資と輸出。2001年以降、投資のファイナンスにおいて国内資金の占める割合が大きくなる。

	2000年	2001年	2002年	2003年
GDP成長率	4.0%	4.5%	5.0%	5.0%

(*)一時、2000年の4%成長は無理との見方もあったが、現在(3月時点)では必ずしも無理な数字ではないかも知れないとの見方も出てきている。

(3)雇用と所得

人口増加率の低下(現在年1.5%以下)もまだ経済活動人口(Economically Active

Population→EAP)に反映しておらず、同人口は年率2.3%程度の速度で増大する。これは、2000-2003年の4年間でEAPが750万人増加することを意味する。

PPAのマクロ経済シナリオでは、4年間に、年平均2.7%の雇用拡大を見込み、期間中に850万の新規雇用創出を期待している。これは新たに労働市場に参入する人口(750万人)を吸収し、かつ失業者を100万人減らすことができる規模である(→2003年には現在に比し、失業率が1.5%ポイント程度低下することを意味する)。

(4) 対外部門

98年の輸出額は511億ドル(全世界の輸出の約1%)。連邦政府は2002年までに輸出規模を倍増させること(→1000億ドル)を目標として掲げている。この目標達成のため、政府は、為替レートの相対的安定を図るほか、各種の輸出促進策を採る。そのひとつがPROEX (Programa de Financiamento as Exportações)。この制度によるファイナンスを受けた輸出は1994年には全輸出額の1.2%に過ぎなかったが、1998年には16.2%に上昇している。

(5) 財政調整

99年上半期の公的部門全体(Consolidated Public Sector)のPrimary Balanceは136億レアル(GDP比2.9%)の黒字を達成(このうち、中央政府が119億レアル(同2.5%))。また、6月末のネット公的債務/GDPは49.8%と安定的に推移。これらの結果が、一部「非恒常的」なベース(臨時的な増税等)によるものであることは(政府も認めているように)事実であり、公的部門の永続的な健全化を達成できるかどうかは構造改革の進展に依存する。

2000~2003年のシナリオでも、責任ある緊縮的財政運営を継続する意向であり、これが公的債務/GDP比の安定のベースとなる。

結びに代えて

1. 従来の開発計画は、非現実的な前提のゆえに「フィクション」の域を出ないものや、達成されても代償として財政の悪化やインフレの高騰を招くことが往々にしてあったが、今回のPPAは企画と予算の緊密な連携によって、あくまで「財政健全化計画」の枠組みのなかで現実との整合性の確保に多大なエネルギーを投入している。プロジェクトの遂行にあたっては、Brazil in Actionで成果をあげたマネジャー制度を全面的に採り入れ、成果志向のプロジェクトマネジメントを目指そうとしている。Brazil in Actionの実績に鑑みてもPPAに記載されたプロジェクトの達成率はかなり高いのではないかと期待される。
2. ただ、非常に野心的な計画であることも事実であり、これを緊縮的な連邦財政のなかで遂行していくには民間資金の参画が不可欠であるが、これがどの程度はいつて来るかは現状、不確定要因とせざるをえない。民間資金の参画を高めるための施策として、連邦政府は、投資を呼び込むための機関(agency)設立を検討中である。ブラジルの国の情報、投資機会、法制、立地条件等々、外国投資家にとって関心のある投資環境情報を一元的に扱い、提供することを目的とするもの。現在まだ検討段階であるが、早ければ本年上半期中にも活動を開始する予定である。Tavares企画大臣によれば、このagencyはPPAのスタートによって一層重要性を増すことになる。
3. PPAにおいては、民間資金と並んで、州・市等の地方政府とのパートナーシップ(連携)を謳っているが、税収の8~9割を人件費に支出しているような財政パフォーマンスの悪い州が少なくないなかで、中央政府の考える連携がどこまで実効性を持つものなのか。地方分権の時代において、PPAに限らずさまざまなプロジェクトを進めていくうえで州財政の健全化が不可欠の条件であり、この進展が重要な鍵を握るように思われる。

以上

資料1：戦略指針(Diretrizes Estratégicas)およびマクロ目標(Macro-Objetivos)

戦略指針

1. 持続的成長を伴った経済安定を確固たるものにする

ブラジルの経済は、新しい開発のモデルに取り組んでいる。そのモデルとは、生産システムの近代化による企業間競争の増大、および輸出や設備投資の拡大を通じた海外市場との統合、に基礎をおくものである。所要のマクロ経済条件を創出するためには、経済安定化のプロセスを確固たるものにするのが不可欠である。そのためには公共財政の健全化が決定的に重要であり、かつそれを、優先度の高い分野における投資能力が完全に回復するまで継続しなければならない。

2. 雇用機会・所得機会の創出に向けて持続可能な開発を推進すること

持続可能な開発を前提にした新しい開発モデルを我が国に導入するためには、国家(State)の役割を見直す必要がある。すなわち、国家は成長の誘発者(inducer)として、またあらゆる事業活動、とくに民間に移管された事業の規制者(regulator)として強化されなければならない。この新しい国家の役割のもとでは、民間企業および社会の他の機関との連携が投資と雇用の拡大をもたらす。政府が優先的に開発を推進する分野には、競争力を高める必要がある伝統的な生産事業やサービス業に止まらず、その重要性が高まりつつある次の分野も含まれている。

- 観光／文化事業 — 雇用と所得を創出するポテンシャルが大きい。
- 教育および職業能力向上 — 変化の早い世界の情勢下で、社会的不均衡の是正を図り、各個人に自己実現の機会を与える意味から極めて重要である。
- アグロビジネス — 農牧加工製品の輸出のポテンシャルは大きい。

3. 貧困撲滅および社会参加を推進すること

貧困を撲滅し、社会の不平等を是正するにあたり、社会が要求するスピードと規模に応えるには、公共政策を企画しその資金調達を図り、さらに社会を動員して事業を遂行する機動的な国家が必要がある。

4. 民主主義および人権擁護の基盤を強化すること

市民社会の強化は社会の発展の実現に不可欠な要因である。国家と社会が新しい形の関係を樹立するためには、市民各自が協調精神と社会的責任感を持って直接参加することが必要である。我々が提案することは、民主化を徹底的に追求することである。すなわち、国家のみが社会福祉を提供する唯一の責任者とする幻想を捨て、民主主義を強化する

ことで、幸福な社会の建設に向けて多数の市民が参加する道が開かれるのである。

5. 地域間格差を是正・縮小すること

持続可能な開発には各地方が一様に統合のとれた形で成長することが必要であり、地域間格差の是正への問題意識は今後数年間、政府の開発戦略のあらゆる面に現われることとなる。そこから「国家統合開発軸(Axes)」の中の公共及び民間投資のポートフォリオが出来ており、その中の多くの投資計画は「多年度計画(PPA)」の中にすでに含まれている。

6. 差別・偏見の被害者であるマイノリティーの権利確保を推進すること

人権擁護、特に差別と偏見の被害者であるマイノリティーの擁護は、今後4年間の政府の戦略の中でも中核を成す重要なものである。市民権が強化されることは社会の発展を意味し、その発展こそ我が国における民主主義確立に不可欠なものである。政府は文化を振興する一方、女性・子供を家庭内暴力および性的虐待から保護し、また黒人・先住民の人権を保証するよう活動する。

* * * * * * * * * * * * * * * *

マクロ目標(Macro-Objetivos)

1) 持続的成長を支えるマクロ経済環境の創出

今後の経済政策は、生産性の向上、輸出・投資の増大に重点をおいた新しい成長モデルの強化に向けられるべきである。政府は憲法の経済秩序条項を改革することによって、国の基礎的インフラの近代化事業に民間資本が参入できるようにした。民間資本の参加というこの新しい段階において、その活動を規制し監視することが重要であり、そのことが消費者の需要に応え、生産セクターの競争力を増強することに繋がる。政府は次の政策を推進する;

- 租税制度を簡素化して生産・投資・輸出活動への負担を減らす。
- 生産セクターの再構築、輸出および投資の増大が図れるような長期の融資制度を確立する。
- 民間資本の活動の規制と監視を強化し、民営化プログラムを継続する。

2) 公共財政の健全化

国内総生産(GDP)に対する公的債務総額の割合を今後数年間に亘って安定させることは政府の国民に対する公約である。このために展開される政府の対策としては、金利の低下および持続的成長の再開という局面に関連して、①金利を除いた財政収支の構造的な改善を図ること、②民営化および事業コンセッションのプログラムを加速させること、③税金の徴収、監督、管理を近代化すること等が挙げられる。優先事項は次の通りである;

- 企画・予算・財政・監督制度の改善により、歳出の質的な改善を図る。
- 連邦・州・市の3段階での財政赤字の減少を図る。
- 社会保障制度の改善を図り、連邦・州・市の3段階における社会保障関連の赤字幅の減少を図る。

3) 国民の教育レベル及び職業能力向上

教育と職業能力向上は社会格差の減少および国民経済の競争力増大にとって重要な要素である。財・サービスの生産において常により新しいノウハウが要求され、革新が行なわれている情勢下では、高い教育レベルをもち労働市場の変化および要求に常時対応できる専門家がますます不可欠になってきている。政府の活動は次の事項に重点を置く;

- 教育の質の向上に教育分野の投資を集中する。
- 基礎及び中等教育の教師の能力向上を図る。
- 中等教育の普及を保証する。
- 連邦・州・市の各レベルの政府と民間部門との連携で、それぞれの地域の要求に見合った専門職養成コースの拡充を図る。
- 専門職に対する需要に応じた大学教育の質の向上を図る。

4) 2002年までに1000億ドルの輸出を達成

世界の輸出額に対するブラジルの輸出の参加比率は、ブラジルのポテンシャルを

イ-を大きく下回っている。ブラジル経済の優位な点の一つは、生産分野に規模のメリットをもたらす国内市場の規模にある。輸出を増やすということはただ単に外貨を獲得することではない。企業に利益をもたらすだけでなく、国内で新しい雇用機会を創出することを意味する。政府は次の事項を追求する：

- 輸出指向の製品の生産と販売、および輸出可能財の生産に向けた中間投入財の生産・販売をサポートするような融資制度の確立を図る。
- 付加価値のより高い製品の輸出を拡大する。
- 中小企業の輸出向け製品の物流と販売部門で支援する。

5) アグロビジネスにおける競争力の増大

農牧部門では、特に輸送分野のインフラ整備等、近年行われてきた再構築政策の成果により、多岐にわたる作物の生産性向上と相俟って、ブラジルの農牧輸出製品の競争力が増大してきている。政府と民間の協調体制をさらに深めることにより、生産連鎖を強化し、技術革新の導入、農牧製品の生産・販売を支援するシステムを近代化する必要がある。政府が注力する政策としては、規制制度の改善、企業の需要に応じた技術革新の改善、アグロビジネスのルールに適合した融資制度の改善等が挙げられる。具体的には、

- 公共財源を投入することなく生産者のリスクを減少させるため、生産・販売支援のための新しい金融手段を導入し、その普及を図る。
- 生産体制の競争力を増すために、生産部門／アグロインダストリーと連携して、農牧技術の近代化を支援する。
- 農牧業の収益率低下の主な要因に焦点をあてて、衛生管理システムの改善を図る。

6) 観光産業の振興

観光産業は雇用創出・外貨獲得能力に加え、投資を呼び込む能力の点でも優れていることから、観光産業の分野にも政府は力をいれる。特に観光分野で大きなポテンシャルを有しながら雇用・所得機会に恵まれない地方に重点を置き、以下の政策を目指す：

- 州・市・民間部門とともに、新商品の開発およびサービスの質の向上を図る。
- 観光地へのアクセスの手段を増強する。
- 観光分野の専門能力の向上を図る。

7) 文化事業の振興

文化事業はブラジルにおいて最近発展している分野である。すなわち、ブラジルの文化遺産の豊富さと多様性は、これから数年間に亘りこの分野のビジネスと雇用を保証するものである。この機会を有効に活用するには、文化的な財・サービスを持続的に生産・利用できるような体制をたて、観光事業、文化事業、そして国のイメージ宣伝活動等をお互いに連携させ有効に活動を遂行する必要がある。政府は次の点に力を入れる：

- 文化観光を振興し、歴史的遺産の持続性と工芸品の価値向上を図る。
- オーディオ・ビジュアルおよび出版産業を奨励する。

8) インフラの近代化および電気通信・エネルギー・運輸サービスの向上

民間部門の参加の増大を伴ってインフラ整備への投資が回復しつつある。このことは、これから数年間に亘る我が国の経済発展を支える柱のひとつである。これらの投資は生産システムの活力と競争力を妨げる障壁を取り除くだけでなく、基礎的公共サービスの近代化と普遍化(universalization)に向かつての決定的な一歩を意味する。インフラ近代化における最大の課題は、生産的投資の機会が各地域に平等に配分されるよう我が国の経済地理を作りなおす作業である。この分野での優先事項は以下の通り;

- 競争力向上をめざし、沿岸航海を奨励し港湾設備の近代化を急ぐ。
- エネルギー源として天然ガスの割合を増やす。
- 輸送事業への投資において複合性(Multimodal)を追求する。
- 河川交通の多様なポテンシャルを追求する。
- エネルギー、交通、通信サービスの質の向上を図る。
- 「国家統合開発枢軸(axes)」の構築を継続する。

9) 国内市場における競争促進を目的とする生産体制の再構築

新しい開発モデルを定着させるためには、生産システムの再構築プロセスを深めることが必須である。その再構築は、品質改良、生産性増強、革新能力の向上に基づく競争力の増強を通じて行なわれる。また生産連鎖を濃密にするためには競争力のある投資を呼び込んで振興することが重要である。財・サービスの付加価値の増加を可能にするような工業設備の導入・拡大を図るためには新しい融資機会と融資方法が不可欠である。それと平行して、企業側も公共投資と連携し、情報とノウハウの向上等の生産革新への投資額を増やすことが生産体制の再構築には決定的に重要である。政府の活動は重点的に次の方向に向けられる:

- 零細・中小企業を対象として、それらの品質と生産性レベルの向上を図ることを目的に、技術・サービス援助のための金融支援体制を構築する。
- 貿易の自由化によって大きな打撃を受けた部門のリストラを支援する。
- 企業の付加価値向上戦略を支援する(技術・マネジメントの革新、デザインおよび商標、生産と販売の戦略的同盟、物流システムの改善、環境管理、知的資本の開発)。
- 輸出潜在力を持つ分野、アグロビジネス、観光、建設等における製品とサービスの品質向上を目指したイニシアチブを強化する。
- 市レベルでのPROCON(消費者保護機関)および民間消費者保護団体等の新設を支援し、全国的な消費者保護システムの確立を図る。

10) 就労機会の増加および雇用の質的向上

セクター・職種・地域をまたいだ労働力の移動が増加していることに鑑み、政府は、労働者が新しい職、より良い職につけるような活動に焦点をおき、次の点を考慮する;

- 地域あるいは地方の労働市場のニーズに見合った形で、また雇用主、労働者、組合と協調して、労働者教育・再教育・失業保険給付・労働力仲介・小規模融資等を推進する。
- 正規の労働市場における雇用拡大を目的として、労使間の交渉を促進するようなメカニズムを構築する。
- 職場における労働者の衛生および安全性の改善を目指した活動を拡大する。

11) 環境管理の改善

富の創出および天然資源の保存は自然資源の適切な利用と密接不可分である。我が国の広大な国土、環境・経済・社会面での多様性に鑑みれば、地方分権体制のもとで、各州政府が私企業との共同責任で環境管理に本格的に参加することが必要である。連邦政府の中心的な役割は、以下の点を目的として、一般的な規範を設定し、諸活動の調整を全国レベルで行ない、さらに民間企業にもコミットを求めることにある。

- 企業における環境マネジメントの促進を図り、ISO14000規格を取得するよう奨励する。
- 再植林の推進およびマングローブの保全を図る。
- 保護区域における環境管理を規制し、改善する。
- 環境管理の州政府レベルへの分権を完了させ、ライセンス発給の期間を短縮し、環境インパクトの観点から投資プロジェクトの質的改善を図る。
- 水利用に関する法律を施行し、河川流域の統合的管理を推進する。

12) 革新能力の向上

企業の競争力を増強し、輸出の拡大を図るためには、生産プロセス、製品およびサービスの革新が決定的に重要な要因となる。この革新には、衛生・教育・エネルギー・環境に関する基本的問題の解決ということも含まれている。我が国はまだ、研究の成果や技術力を革新や競争優位(competitive advantages)に転換する能力が弱く、この弱点を克服しなければならない。このことは、国が、民間の工業開発戦略と有機的に連動した形で科学技術開発戦略をデザインすることを意味する。すなわち、社会の最も緊急な問題を解決するための革新政策の基準に基づいて投資を配分する、すなわち国の科学・技術予算を企業の競争力向上および市場のニーズに応じるために割り振るということである。そのために次の点を追求する;

- 公的機関、大学、研究所等と連携して、企業の「研究・開発」(R&D)活動を奨励する。
- 高速ネットワークの新しい応用法の開発と普及、およびそのための人材育成。
- 研究開発機関や大学のマネジメントを、技術的刷新への対応能力改善に向けて指導する。
- 工学分野の人材育成／専門化に向けた努力を強化する。

- 消費者の権利を守るため、製品/サービス/専門家/管理システム等に関する品質証明システムを拡充する。

13) 国際経済関係における我が国の参画の強化

グローバル化は挑戦と機会の両方をもたらす。こういう環境のもと、国際経済における我が国の立場を強化することが不可欠である。地域統合は、この新しいシナリオに我が国が競争力を持って参入を果たしていくために不可欠である。そのためにも以下の事柄が重要な役割を果たす：

- メルコスール(南米南部共同市場)の基盤を確固たるものにし、その他の南米諸国との統合を促進する。
- 世界の金融市場の動揺を緩和する多国間協定の創設を通して、安定的経済秩序を守る。
- 我が国の財・サービスの輸出に対する障壁を削減する努力を強化する。

14) 全国民に対する質の高い教育の提供

就学年齢にあるすべての児童に質の高い基礎教育が提供されずして、民主的で進んだ社会の実現はありえない。比較的短期間に教育の民主化を達成した国では例外なく、教育の質の向上過程で地域住民の積極的参加があった。この分野で政府は次の点を目指す：

- 7歳から14歳までのすべての児童に対して質の高い学校教育を保証する。
- 教職員の社会的地位を向上させるための活動を強化する。
- 学校の運営に地域住民の参加を奨励する。
- 教育の質および成果を指数表示し、これをベースとした州・市への予算配分基準を設定することで、基礎教育の評価システムの質的向上を図る。

15) 医療サービスへのアクセスおよび診療に際しての人間的な扱いの保障

加速する都市化、人口の高齢化、発生する疾患、再発生する疾患等に起因する問題の解決を目的とした保健衛生政策は不可欠である。その重点は予防活動、医療サービスの普遍化(universalization)、サービスの質の向上等に置かれるべきである。従って政府の政策は、次ぎのようなものが重視される：

- 家庭内の健康を重視した活動を拡大し、基礎的医療に重点をおいて、疾病予防および保健衛生の促進活動を強化する。
- 女性の健康管理体制を推進する。
- 医療サービス管理システムを変革する。
- 最大限の監視(衛生監視、伝染病監視、環境面の監視)を実施することによって、疾病の悪化に先手を打ち、また流行病への変質を察知する。
- 保健衛生分野のサービスと活動を地方に分権する。

16) 飢餓との闘い

貧困撲滅の一般的な対策に加え、政府は飢餓と極貧の深刻な地域に緊急対策を

集中させる必要がある。さらに児童栄養失調対策の充実を図ると共に次の点を追求する：

- 基礎的衛生推進活動に関連した食事対策を通じて、2歳未満の児童の栄養失調を撲滅する。
- 飢えの深刻な地域においては、州・市と共同して、地元産の食料を優先的に利用し、必要最低食料バスケットの配給を行う。
- 政府の衛生・教育プログラムにおいて食事指導を行う。

17) 幼児死亡率の削減

幼児死亡率を引き続き減少させるべく、従来の努力をさらに拡充する必要がある。すなわち、妊娠、出産、新生児等に対する直接的ケアは言うに及ばず、予防的対策（授乳、予防接種、栄養失調対策、保健教育）の他、上下水設備やその他の基礎的な都市の施設へのアクセス改善に向けた対策を講じる必要がある。政府の優先的事項は次の通りである：

- 出産前後（出生前、出産、新生児）における介護の質の向上を図る。
- 授乳促進活動を強化する。
- 予防接種活動を強化する。
- 特定の栄養失調状態を解消する。

18) 恥ずべき児童労働の根絶および青少年労働者の保護

政府は、教育・衛生・労働・司法・ソーシャルワーク・スポーツ等の活動を通じて、青少年労働者の保護を保証し、恥ずべき児童労働および青少年をも巻き込んだ違法活動を根絶しなければならない。政府は次の点に努力を傾注する：

- 奨学金制度を拡大し、労働から離れた児童に対してより長い在学時間を保証できる体制を作る。
- 州・市政府の協力のもと、児童労働に対する監視を強化する。

19) 社会的排斥の被害者に対する保護サービスの保障

市民権が脅かされたり、公共機関のサービスから疎外されやすい社会階層に対し、あらゆる手段を以って、社会的な保護を保証できるようなシステムを確立する必要がある。政府の採るべき戦略は、連邦政府の活動および州・市・NGO等との連携活動をより効果あるものにするため、ターゲットを明確にし、プログラムの管理運営を強化することである。そのためには以下のことが必要となる：

- 「最低収入プログラム」を地方に分権し、その遂行にあたっては地元の機関を関与させる。
- 社会福祉プログラムの監視を強化し、その運営を改善することで福祉のカバ一範囲を拡大する
- 大都市のストリートチルドレンに対する援助サービスや法的・社会的保護に従事するNGOを支援する。
- 高齢者の健康に関する活動を促進する。
- 身体障害者の就職・所得機会を推進する活動を支援する。

- 州・市との協調によって、低所得家計の6歳未満の児童に対するケアを支援する。

20) 農村の統合的開発の推進

連邦政府は、地元住民および地元の行政当局の参加を得て、統合的地域開発を通じた小規模農家の振興を進める。すなわち、農地再構成、家族農業推進、技術支援、インフラ整備、基礎的社会サービスへのアクセス向上等の活動を統合することによって、市場で競争できる条件を整え、農村の生活レベルの向上を図る。その戦略は次の通りである；

- 統合的地域開発によって家族規模のアグロビジネスを可能にする。
- 新しい農地再構成モデルを開発することによって農地改革を継続する。
- 農村配置完了地区の自立を推進する。
- 訓練、能力向上および生産連鎖に参入するためのインセンティブ供与等を通じて、小規模なアグロインダストリーを支援し、家族規模のアグロビジネスの競争力向上を図る。

21) 人口集中地域や大都市圏における生活の質の改善

大都市における生活の質の改善には、交通・輸送・環境衛生・住宅・都市暴力等の分野において3つのレベルの政府（連邦・州・市）が連携し、それに社会が参加した形での管理が必要である。そのために政府は以下の点を追求する；

- 都市開発、とくに大都市圏の都市開発において連邦・州・市の共同管理体制を強化する。
- 連邦予算を地方都市のインフラ投資に回す場合は、低所得層に十分な配慮を行なうこと、および適切なマネジメント基準に合致することを条件づける。
- 民間部門との連携によって、都市開発のための新しい資金的支援のメカニズムを開発する一方、連邦・州・市において税制面・金融面の支援手段を改善する。

22) 住宅供給の拡大および既存住宅の改善

住宅供給を拡充するためには、連邦・州・市による公的資金の投下ならびに民間による融資の拡大が必要である。土木建築における品質の改善、生産性向上、革新能力向上等を進めることが必須である。優先事項は次の通りである；

- 最低賃金の3倍までの低所得家族に対して公的資金、とくに税収入を優先的に回す。
- 住居のコスト削減および質的改善を促進する。
- 住宅分野への民間投資の回復を促すような融資方法を推進する。

23) 都市における基礎衛生および環境衛生サービスの拡充

政府は、都市衛生サービスの普遍化(universalization)を追求すべきである。その内容としては、市民の基本的ニーズを満たすこと、公共衛生を一定レベルに保ちつつ生活の質を向上させること、自然環境を保全すること、消費者の権利を保護すること等が含まれる。

そのためには以下の事項が必要である;

- 州・市当局が規制・監視等の機関(regulatory agencyを含む)を設置するにあたって連邦政府は支援を行なう。
- 州・市当局が民間とパートナーシップを組む場合、民間に公共サービスを委託する場合、いずれの場合にも連邦政府はあらゆる面での支援をするが、融資を行なう場合は、サービスのカバー範囲の拡大やサービスの質的改善等の条件をつける。
- 上水供給、ゴミおよび都市の固形廃棄物の収集・処理に対する融資を拡大する。この場合も、財政資金は低所得層のニーズの充足に充てられる。
- 大都市における環境管理を強化する。

24) 都市の交通・輸送サービスの質的改善

輸送サービスの質を改善し、かつ移動に伴う経済コストの引下げを可能にする施策を通じて、市民の移動のニーズに応える必要がある。政府は次の点を配慮する;

- 低所得層を対象にした公共輸送手段の改善を目的とする融資を優先する。
- 大都市圏の交通システムの調整および統合に向けて、連邦・州・市政府の協調を図る。

25) 市民権の強化に向けた文化の振興

文化は統合の強力な手段であり、ある特定の地方や国の文化に所属するというアイデンティティーの影響で生み出される、寛容・平等・連帯といった価値観の普及に力を発揮する。これらの価値観は、すべて、公共衛生を一定の水準にまで上げる。政府は以下の事項を優先する;

- 民族および地域の文化的表現をテーマとした興行、展示会、イベントの全国巡回を振興する。
- 公共図書館の数を拡充する。
- 国立博物館の修復作業を継続し、大規模な国際巡回展示会の会場に提供する。また、とくに国立博物館での博物学活動を推進する。

26) 人権保障の推進

社会的弱者に対する不平等および暴力の歴史に鑑みれば、人権を無条件で擁護することは市民権形成に決定的な重要性をもつ。これは国家の役割ではあるが、社会とその責任を分担することができて初めて達成可能となるものである。優先事項は次の通りである;

- 児童・女性を家庭内暴力および性的虐待から保護する活動を強化する。
- 黒人の権利保護活動を強化する。
- 先住民族の集団的権利、および彼らの土地と文化の保全を保障する。
- 各種市民登録の無料化を推進する。

27) 民主主義および開発の基盤強化のための国家防衛体制の確立

ブラジルは世界で最も武装度の低い地域のひとつに位置する、それは主として隣

国との信頼関係に起因する。しかし、我が国は広大な国土および開発されていない膨大な自然資源を有することから、有効な抑止力を備えた防衛体制を持つ事が望ましい。そのために以下の点を追求する：

- 近代化の主要な要素としての人材の質および技術開発をベースとして、軍隊の抑止力を維持する。
- 三軍の所有する防衛手段を一体的運用を通じて、国家防衛システムの最適化を図る。
- とくにアマゾン地域の防衛活動に重点を置く。そのため、国家(State)の存在を拡充し、監視を強化し、遠隔の国境地帯においては地域住民(先住民)に市民権を付与し、以って国家防衛体制に統合する。

28) 暴力の減少を目的とした政府および社会の動員

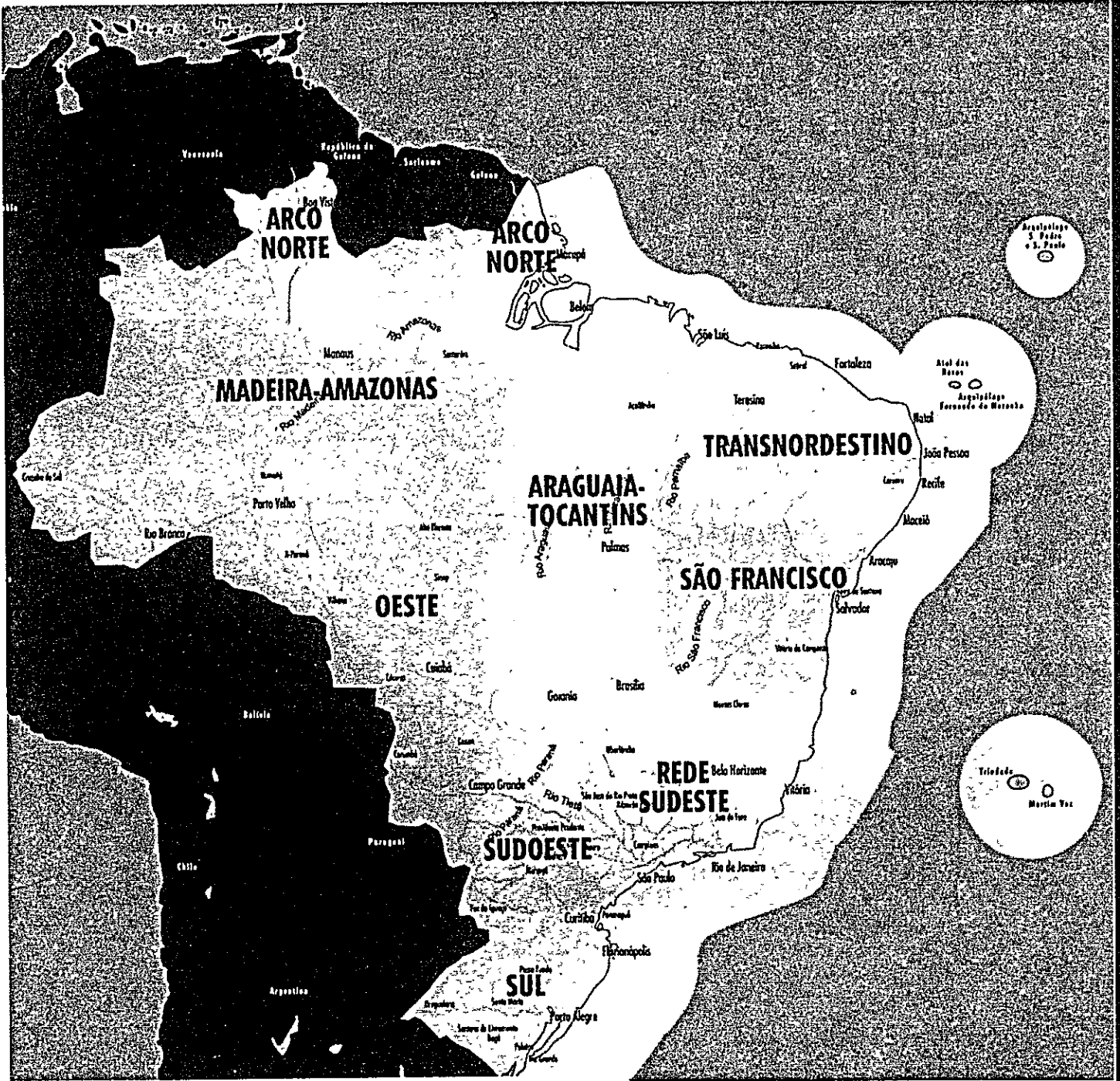
治安当局が市民の安全を保障する役割を果たすためには、警察機構の近代化と能力向上および地域住民の参加という組み合わせが不可欠である。治安の改善には、一時的な効果しか持たない緊急活動よりも、あらゆるレベルの治安機関と当局の強化と連携を通じた、以下のような内容の不断の努力が必要である。

- 組織犯罪、特に麻薬組織対策を強化する。
- 犯罪の道に染まるリスクのある青少年の保護活動を展開する。
- 警察の能力向上および住民に対するイメージアップを図る。
- 刑務所の運営を近代化する。

以上

資料2 : Study of National Axes of Integration and Developmentの概要

1. 9つのaxesの地図



2. 各地域(axis)の概観

	全国比(%)			自然的与件、経済・社会の現状、発展の方向性と可能性
	面積	人口	GDP	
アマゾン地帯 ①Arco Norte ②Madeira- Amazonas	4.4 31.8	0.4 5.0	0.3 3.8	豊富な天然資源とクリーンエネルギーの利用が新しい投資機会を提供する。近隣国(とくにベネズエラ)との統合の要衝。そのためには、アマゾンの自然と調和した近代的なインフラの整備が必要(輸送網、天然ガスによるクリーンエネルギー)。
東北部地帯 ③Transnordestino ④Sao Francisco	7.4 10.0	16.4 10.8	7.0 6.1	最大の課題は貧困問題。最近の成長はこの地帯の大きなポテンシャルを示す。観光・穀物生産・果樹栽培等がこの地域の経済活性。石化、製鉄、紙パの可能性も。最近のフォード工場移転の効果も注目される。輸出基地として港湾設備の整備は不可欠。
中部・西部地帯 ⑤Araguaia -Tocantins ⑥Oeste	16.2 13.6	8.2 2.5	6.6 2.2	農牧業の拡大発展により、国内各地方の経済的結節点としての重要性高まる。拡大のベースはセラード。インフラへの投資がコストを下げ、当地域の産品の国内外市場へのアクセスを改善する。自然環境としては、極めてユニークな生態系としてのパンタナールを擁す。
東南部地帯 ⑦Sudeste	6.5	37.8	52.3	リオ、サンパウロ、ベロオリゾンテ等を擁し、経済金融の圧倒的中心地域。大きな課題は生産条件の再構築。経済・人口の急速な成長が、汚染工業の集中、交通・通信手段の混雑を招来。インフラの近代化が急務。サービス部門での新しいビジネス機会、零細企業の発展等が現発展段階における戦略となる。
南部地帯 ⑧Sudoeste ⑨Sul	4.6 5.5	7.0 11.9	8.4 13.3	大消費地に近接するという利点を如何に生かすかがこの地域の課題。国際的な統合のプロセスが投資誘致の可能性を開く。メルコスル・ハイウェイ等はこの目的に合致する。社会開発/環境保全分野の投資は主に失業対策、汚染対策に向けられる。もう一つの機会、近代的農牧業/アグリビジネス。

(注) ①～⑨が各axisの名称

3. 各セクターの概観(課題と目標)

経済インフラ	経済の競争力向上と成長への環境整備は経済インフラの改善に依存。民間や地方政府とのparceriaを強く打ち出したBrazil in Actionを補完し、継承するもの。
運輸	貨物・旅客輸送の問題を解決。道路・鉄道・水運・港湾・空港プロジェクトから成る。
エネルギー	①水力・火力発電所の建設・増強、②送電網の拡充、さらに③(天然ガスの供給を増やして戦略的にエネルギー源の多様化を図るため)ガス・パイプラインの建設
通信	電話(固定・携帯・公衆)の供給、データ通信網の充実等。情報時代への参入に備えるためには通信手段の近代化と拡張を急ぐ必要がある。
東北伯の水資源	21世紀において水は世界的に重要な課題となる。国内に数多く川は存在するが、問題は如何に上質の水を供給できるか。水問題が開発の足枷とならないよう、政府は各種の行動を起こしている。東北伯では水問題は特異なディメンションを有する。半乾燥地での旱魃はいまだに開発への深刻な障害となっている。自然の与件に加えて不十分なインフラと治水が安定的な水供給を妨げている。水の供給がこの地域の最大のボトルネックとなっている。従って、Axesでは特別にこの問題への投資を見込んでいる。
社会開発	ブラジルの社会問題は、教育・保健・食料・住宅・上下水道どれをとっても深刻。Axesでは、貧困の軽減と社会的不均衡是正に取り組むべく、特に以下の4分野を対象に不可欠のプロジェクトを選定。大都市圏への人口流入を回避するため、内陸部の小都市の社会開発に重点。
教育	基礎教育の普及。主要目標は、2007年までに4～7歳児童の小学校への就学の達成。若年層の識字率の向上。教師の能力向上。
保健	貧困層への医療サービスの質的改善。風土病の根絶。幼児死亡率の低下。医者・病院のベッド数増大を図る投資も想定(→医療サービスへのアクセス改善)。ベッド数を国際的レベルまで引上げる見込み。
上下水道	全住宅への上水供給確保。主要都市における下水網と定期的なゴミ収集の一般化およびその他自治体への拡大。この分野への投資は公衆衛生への投資にもなる。上水、下水網、ゴミ収集等は伝染病の発生を抑制する。上下水道、ゴミ処理等への投資1リアルが公衆衛生面での支出2.5レアルの節約に繋がる。
大衆住宅	法定最低賃金3倍までの所得層の住宅需要の解決。劣悪な居住環境の改善のため、220万戸の建設が必要。上下水道、住宅等への投資は貧困層の生活改善のみならず、土木建設を活性化し、労働力吸収にも役立つ。
環境保全	自然資源の正しい活用に基づく持続可能な開発の促進。環境保全を投資の制約要因としてではなく、広くビジネス機会を提供するものとして捉える視点を提示。エコツーリズム、ゴミのリサイクル、果物栽培、原生植物からの薬品製造等々。
情報・知識	財・サービスの生産に新しい知見や技術進歩を取り込んでいくことは国民の「生活の質」の向上に不可欠。Axesでは、専門家の育成、技術研究、情報の普及等の分野での投資プロジェクトを想定。新しい生産技術を導入するためのR&Dへの投資、情報へのアクセス改善。 地域毎の与件・潜在力に応じて重点の置き方は異なり、それに合わせてプロジェクトは選定されている。東北伯の半乾燥地帯では灌漑作物の改良、アマゾンではバイオテクノロジーの開発、etc。

4. 地域別・セクター別支出予定と資金調達

表1 分野別の投資所要額と資金ソース

	潜在的投資所要額	資金源(官 : 民)
経済インフラ	1861億レアル (1063億ドル)	
運輸	(551億レアル)	40 : 60
エネルギー	(513億レアル)	40 : 60
通信	(711億レアル)	0 : 100
東北部の水資源	(86億レアル)	
社会開発	1128億レアル	90 : 10
保健	(347億レアル)	
教育	(314億レアル)	
上下水道	(254億レアル)	
大衆住宅	(213億レアル)	
環境保全	157億レアル	80 : 20
情報・知識	24億レアル	40 : 60
計	3170億レアル (約1800億ドル)	50 : 50 (平均)

(注) 同じセクターのプロジェクトでも案件によって官民比率は当然異なる。大都市圏等であれば民間の比率は上がろうし、辺境地であれば官の比率が高くならざるを得ないといった具合に。

表2 インフラ各セクターの内訳

表2-1 運輸 (551億レアル)

道路	224
鉄道	189
空港	96
水路	29
港湾	13

表2-2 エネルギー (513億レアル)

水力発電	291
火力発電	176
送電線	33
ガス・パイプライン	13

表2-3 通信 (711億レアル)

電話(固定・携帯・公衆)	677
Paging/Trunking	14
光ファイバー	14
データ通信	6

表2-4 東北伯の水資源（86億リアル）

サンフランシスコ河の水利 改造	30
灌漑	18
水路	13
ダム	10
ダム+水路	7
地下水	5
治水関連インフラの改修	3

表3 環境分野の投資所要額内訳（157億リアル）

水資源	63
森林	33
持続可能な開発	21
環境の質	16
エコツーリズム	8
砂漠化防止	7
水産資源(漁業資源)	4
バイオ	4
環境教育	1

表4 地域(Eixo)別・セクター別 投資機会の配分

(単位:億リアル)

	経済インフラ	社会開発	環境保全	情報・知識	小計
アマゾン	140	86	14	1	241
東北部	304	330	23	4	661
西部・中部	315	161	18	4	498
南東部	702	352	21	4	1079
南部	387	198	24	5	614
ナショナル・プログラム	13	1	57	6	77
小計	1861	1128	157	24	3170

資料3: Axes のプロジェクト一覧

Oportunidades de Investimentos Públicos e Privados 2000 - 2007
2000-2007 年の公共及び民間投資の機会

Infra-Estrutura Econômica
経済インフラストラクチャー

EIXOS DA AMAZÔNIA-ARCO NORTE E MADEIRA - AMAZONAS
アマゾン枢軸-北部アーチ及びマデイラーアマゾン

Transportes [10,767.2]
運輸

Aeroporto de Macapá (076)

マカパー空港
新国内貨物ターミナル及び新旅客ターミナル
滑走路への誘導部分拡張

Aeroporto de Porto Velho (076)

ポルト・ベレーヨ空港
新旅客ターミナル；国際空港対応のための航空機エプロン及び新国内貨物ターミナルの拡張

Aeroporto de Manaus (076)

マナウス空港
新国内貨物ターミナル、旅客ターミナル、航空機用エプロン、及び滑走路への誘導部分拡張

Porto de Santana (316)

サンターナ港
コンテナ用埠頭の補助、及び旅客ターミナルの建設

Base de Alcântara (328)

アルカンタラ基地
湾州道 MA-106 号間の港湾役所及び自動車道(15 km)接続ターミナル建設

Porto de Santarém (320)

サンタレン港
穀類ターミナル；Panamax 船接岸用の埠頭建設

Porto de Manaus (320)

マナウス港
貨物事業をマナウス免税地帯の近くに建設される新港に移転し、現在の港の設備を旅客ターミナルに変更する

Novo Porto de Manaus (320)

マナウス港
マナウス免税地帯の近くにターミナル、浮動埠頭、及びコンテナとばら積み用エプロンを含む新港の建設

Porto de Porto Velho (320)

ポルト・ベレーヨ港
コンテナが使用可能な穀類用ターミナルへ改修

Porto de Sotave ou Vila do Conde (320)

ソターヴェ港、或いはヴィーラ・ド・コンデ港
ソターヴェ港の穀類及びコンテナ用ターミナルの設備の完結、或いは他の方法として、ベレン州道 (PA-151) 建設に加えヴィーラ・ド・コンデ港の工事を実施する

BR-230/AM (320)

国道 BR-230 号/アマゾン州
ウマイター・ラブレア間 200km の舗装

BR-156/AP (316)

国道 BR-156 号/アマパー州
次の区間の舗装

- フェレイラ・ゴメス市の北部のトラカジャツーパーバ川からオイアポーケ市まで 433km (フランス領ギアナとの国境にあるオイアポーケ川上流の二国間橋を含む)
- マカパー市からマザゴン市までの州道 AP-010 号 (56km) 及びマザゴン市からラランジャル・ド・ジャリー市までの国道 BR-156 号(180 km)、合計 236 km

BR-401/RR (316)

国道 BR-401 号/ロライマ州
ボンフィン市及びノルマンディア市までの (約 120km) の国道 BR-401 号の舗装の補助及びボンフィン市とギアナ共和国のレデン市を結ぶタカツウ川上流の二国間橋の建設

BR-317/AC (316)

国道 BR-317 号/アクレ州

次の区間の舗装の補助

- ・ ヴァッカ・ブランカからアシス・ブラジル市まで 184 km
- ・ リオ・ブランコ市からボカ・ド・アクレまで 190 km

PA-253 (320)

州道 PA-253 号

カピタン・ボッソから国道 BR-010 号 (イリツツイア市)まで 40 km を舗装。

PA-252 (320)

州道 PA-252 号

ヴィゼウ市から州道 PA-242 号 (ブラガンサ)まで 120 km を舗装

PA-256 (320)

州道 PA-256 号

トメアス市から国道 BR-210 号 (パラゴミナス)まで 170 km を舗装

BR-230/PA (320)

国道 BR-230 号/パラ州

次の区間の舗装

- ・ マラバー・アルタミーラ間 450km
- ・ アルタミーラ・ルロップリス間 320km
- ・ ルロップリス・イタイツバ間 140km

BR-163/PA (320)

国道 BR-163 号/パラ州

次の区間の舗装

- ・ サンタレン・ルロップリス間 200km
- ・ マット・グロッソ州マツバー・パラ州イタイツバ間 807km (テレス・ピレスータバジョース間の航路の代替プロジェクト)

BR-364/AC (316)

国道 BR-364 号/アクレ州

セーナ・マドレイラ-クルゼイロ・ド・スール間 490km の舗装

BR-319/AM (320)

国道 BR-319 号/アマゾン州

マナウス-ポルト・ベリョ自動車道のウマイター・クルゼイロ・ダ・ヴァルゼア間約 730km の舗装

Energia エネルギー

UTE Macapá (217)

マカパー熱電発電所

熱電発電所を 175MW へ拡張。ウルクー産圧縮天然ガスへの転換

UTE Manaus (215)

マナウス熱電発電所

熱電発電所を 540MW へ拡張。ウルクー産圧縮天然ガスへの転換

UTE Porto Velho (215)

ポルト・ベリョ熱電発電所

熱電発電所を 330MW へ拡張。ウルクー産圧縮天然ガスへの転換

Gasoduto Urucu-Porto Velho (240)

ウルクー - ポルト・ベリョ間ガスパイプライン

ウルクーの油田からポルト・ベリョまで天然ガスを輸送する 500km のパイプラインを建設

Gasoduto Coari-Manaus (240)

コアリー - マナウス間ガスパイプライン

ウルクーの油田からマナウスまで天然ガスを輸送する 420km のパイプラインをコアリー-マナウス間、アマゾン川沿いに建設

LT UHE Coaracy Nunes a Macapá (217)

コアラシー・ヌーネス - マカパー間 熱発電の送電線

138 kV、208 km の第二送電線設置及び関連変電所の拡張

LT UHE Tucuruí a Imperatriz (215)

ツクルイー - インペラトリス間 水力発電の送電線

500kV、415 km の第3及び第4送電線設置及び関連変電所の拡張を図り、東北への送電を強化する

LT UHE Tucuruí a Vila do Conde (215)

ツクルイー - ヴィーラ・ド・コンデ間 水力発電の送電線

500kV、329 km の第2送電線設置及び関連変電所の拡張を図り、ベレンの電力供給センターへの送電を強化する

LT de Porto Velho a Rio Branco (215)

ポルト・ベリョ - リオ・ブランコ間の送電線

ポルト・ベリョからアブナンを経由しリオ・ブランコの電力供給センターを結ぶ

LTs de Porto Velho a Vilhena (215)

ポルト・ベリョ - ヴィリエーナ間の送電線

230kV、合計延長638kmの一連の送電線で送電サービスをポルト・ベリョの南からヴィリエーナまで延長する

LT de Abunã a Guajará-Mirim (215)

アブナン - グアジャラー・ミリン間の送電線

計画されているグアジャラー・ミリンまでサービスの延長実施のため、アブナン変電所に関連付けた138kV、137kmの送電線を設置する

UHE Belo Monte (215)

ベロ・モンテ 水力発電所

シングー川に11,000 MWの設置能力とコントロールされた貯水ダムを持った水力発電所の建設

**Telecomunicações
遠距離通信]****Telefonia Fixa (201)****[1,241.7]**

固定電話

新ターミナル数 1,241,650

Telefonia Pública (201) (205)**[76.5]**

公衆電話

新ターミナル数 48,600

Telefonia Móvel (203)**[84.0]**

携帯電話

新ターミナル数 140,000

**Desenvolvimento Social
社会開発****EDUCAÇÃO (095) (099) (102)****[695.8]**

教育

基礎教育の保証

基礎教育を終了せず、通学していない7歳から14歳までの児童を対象とした奨学金

生徒数 26.4万人

基礎教育を終了していない15歳から24歳までの青少年を対象とした特別プログラム

生徒数 12万人

14歳以上でいまだに基礎教育を受けている少年を対象としたクラス

生徒数 45.2万人

2000年~2007年の期間に対する受け入れ可能な生徒数の増加

34.9万席

基礎教育のための教員資格を持たない代用教員の能力養成

教員 3万人

SAÚDE (183) (198) (174) (189) (088)**[985.7]**

保健

保健の普遍的利用の保証

家庭保健プログラム及び保健普及員

2000/02年 - 住民の50%を対応: 480万人

2003/04年 - 住民の70%を対応: 690万人

2005/06年 - 住民の80%を対応: 820万人

2007年 - 住民の100%を対応: 1040万人

風土病、衛生、環境、伝染病、流行病コントロール
2007年までの対象住民数：1040万人

病院ベッド数
現在の不足数及び2000~2007年の推定需要を満たすための1.2万台

医師
現在の不足数及び2000~2007年の推定需要を満たすための4千名

HABITAÇÃO (348) (347) (345) [864.5]

住居
最低給料の3倍以下の収入の家庭への住居の提供
1997~2007年の推定需要を満たすための新住居14万戸

SANEAMENTO (341) [2,404.1]

衛生
すべての住居に対する上下水道の普及とゴミ収集の拡大

Água

上水
すべての住居に対する水供給
現在の不足数及び2000~2007年の推定需要を満たすための130万戸

Esgoto

下水
下水網の拡大—現在の都市住居の7%から35%に拡大
2007年までに110万戸対応

Lixo

ゴミ
ゴミ収集システムを拡大し全住居の55%までに対象を拡大
2007年までに100万戸対応

Informação e Conhecimento [88.0]
情報及び知識

Informações da Biodiversidade (041)

生物多様性に関する情報
地理に関する情報システムを構築し、アマゾンの生物多様性に関する知識を統合し、その科学的及び経済的ポテンシャル評価を行う

Mecanismos de Desenvolvimento Limpo (270) (274)

クリーン開発メカニズム
京都協定による信用証明取得を目的として温暖化現象を招くガスを排出しない代替動力源の開発及び普及—小規模水力発電所、風力エネルギー、太陽熱エネルギー、バイオマス等

Marca Amazônia (125)

アマゾン商標
アマゾン商標の経済的利用を目的とした戦略の開発と普及により、地域の産物のより高い生産性と取引を可能にする

Desenvolvimento do Ecoturismo (281) (277) (304)

環境ツアー開発
観光ポテンシャル地域の区分け；様々な形式の観光ツアーに関し、現地におけるインフラストラクチャー、サービス、人材等への投資の必要性の調査；観光ツアーのための人材育成

Aproveitamento dos Recursos Pesqueiros (023) (284)

漁業資源の利用
水産養殖開発、漁業技術開発、漁獲物の保存法、生物学サイクルに重要な水産地域への保存、及びアマゾンの奥地の水に関係する活動の持続的開発に必要な人材育成

Manejo de Recursos Florestais (265) (280) (273)

林業資源管理
木材及びその副産物、植物薬剤、化粧品、色素、及びバイオテクノロジー製品の生産を目的として人材育成、そして脆弱な品種を保存するための持続的管理技術の開発及び生殖質バンク、DNAバンクの導入を図る

Desenvolvimento Agropecuário e Agroindustrial (249)

農業畜産及びアグロインダストリー開発
より高い付加価値を持つ農業畜産製品を開発するための人材育成、研究

Desenvolvimento Industrial (249)

工業開発
マナウス無税地帯に重点をおいた競争性の革新を目的とした人材育成、研究、開発、及び鉱物資源の転換

Desenvolvimento de Serviços (249)

サービス開発

近代的サービス、特に保健、観光、文化産業を目的とした人材育成

Biotecnologia (273)

生物学

植物薬剤、化粧品、及びその他のバイオテクノロジー製品の生産を目的とした研究、開発、及び人材育成

Informações para Vigilância da Amazônia (338)

アマゾン監視に関する情報

アマゾンの保護及び監視システム用技術向上

**Meio Ambiente
環境****Fitofármacos e Cosméticos da Amazônia (265) [20.0]**

アマゾンの植物薬剤及び化粧品

Recuperação de Áreas Degradadas da Amazônia (280)

アマゾンの劣化地域の回復

Programa de Ecologia Molecular (Probem) (273) [60.0]

分子エコロジープログラム (Probem)

Centros de Referência Ambiental para os Ecossistemas Amazônicos (273) [2.8]

アマゾン生態系の環境照会センター

Ecoturismo Local Integrado (281) [5.8]

統合的環境ツアー

Pólos Ecoturísticos em Parques Nacionais (267) (281) [32.0]

国立公園における環境ツアー拠点

Turismo Verde (281)

エコツアー

Concessão de Uso de Florestas Nacionais (265) [14.0]

森林公園利用のための払い下げ

Gestão Integrada de Recursos Florestais na Amazônia (273) [100.0]

アマゾン森林資源の統合的管理

Monitoramento e Controle do Arco do Desflorestamento (Proarco) (271) [8.3]

森林伐採アーチ (Proarco) のモニタリングと管理

Gestão Integrada da Bacia do Rio Madeira (283) [130.0]

マデイラ川流域の統合的管理

Agenda Positiva para o Uso Sustentável dos Recursos Pesqueiros Marinhos (284) [56.0]

海産資源の持続的利用に関するポジティブ・スケジューリング

Gestão Integrada dos Recursos Pesqueiros da Bacia Amazônica (284) [12.5]

アマゾン川流域の漁業資源の統合的管理

Pesca Esportiva (270) [10.0]

スポーツ・フィッシング

Frutas da Amazônia (026) (265) [30.0]

アマゾンの果実

**Pólo de Difusão de Práticas Sustentáveis
(Assentamentos de Reforma Agrária; Ecoturismo) (270) [30.0]**

持続的活動の普及拠点 (農業改革に関する配置; 環境ツアー)

Povos da Floresta e Reservas Extrativistas (265) [460.0]

森林及び採取保護区域の住民

Utilização Sustentável de Palmeiras Nativas e Adaptadas (265) (270) [50.0]

原生林及び適応する椰子の木の持続的利用

EIXOS DO NORDESTE - TRANSNORDESTINO E SÃO FRANCISCO
東北枢軸・トランスノルデスチーノ及びサン・フランシスコ

Transportes [6,537.0]
運輸

Aeroporto de Salvador (076)

サルバドル空港
国内及び国際新貨物ターミナル

Aeroporto de Petrolina (076)

ペトロリーナ空港
滑走路及び航空機誘導路の拡張

Aeroporto Campo dos Palmares - Maceió (076)

マセイオー市 - カンポ・ドス・バルマーレス空港
新旅客ターミナル及び航空機用エプロンの拡張
国内貨物ターミナルの拡張

Aeroporto Internacional Pinto Martins - Fortaleza (076)

フォルタレーザ市 - ピント・マルチンス国際空港
拡張: 滑走路、旅客ターミナル及び航空機用エプロン
新設: 国内及び国際貨物ターミナル、誘導路

Aeroporto de Natal (076)

ナタール空港
新空港建設

Aeroporto de Guararapes - Recife (076)

レンシーフェ市 - グアララベス空港
拡張: 滑走路、旅客及び貨物ターミナル
都市アクセスへの適合 (自動車道及び電車との統合)

Aeroporto de São Raimundo Nonato (076)

サン・ライムンド・ノナート空港
新空港建設

Complexo Portuário do Recôncavo Baiano (321)

レコンカヴォ・パイアーの複合港
サルバドルのコンテナ扱いに関する工事の補助; アラツー港の埠頭建設; サルバドルの港地域の再活性化

Porto de Suape/PE (321)

ベルナンブーゴ州スアペ港
コンテナ用船架の建設

Porto de Pecém/CE (321)

セアラ州/ペセン港
コンテナ用船架の建設

Porto de Areia Branca/RN (321)

リオ・グランデ・ド・ノルテ州/アレイア・ブランカ港
港のインフラストラクチャー拡大

Hidrovia do Parnaíba (321)

バルナイーバ航路
ポア・エスベランサダムの2堰システム及び連絡運河の完結、及びバラナイーバ川のサンタ・フィロメーナ・テレジーナ間の航路の補助工事

Terminais de Grãos em Teresina e Santa Filomena (321)

テレジーナ及びサンタ・フィロメーナの穀物ターミナル
ピアウイー州サンタ・フィロメーナ市及びテレジーナ市に荷下ろしと貯蔵用2つのターミナル、道路・航路、航路・鉄道の建設

Hidrovia do São Francisco (312)

サン・フランシスコ航路
前多年度計画[ブラジル行動計画]で予定された工事の補助

Malha Ferroviária Centro-Leste, entre Candeias e Salvador Pinto (312)

カンディアスとサルバドル・ピントを結ぶ中東鉄道網
カンディアス - サルバドル・ピント間に76kmの単線、2kmの橋、及び4kmの側路通過道を含む迂回路の建設

Malha Ferroviária Centro-Leste (321)

中東鉄道網
次の区間の改修

- イアスー〜モンテ・アズール間 577km
- マベレ〜サン・フランシスコ間 103km
- サン・フランシスコ〜ジュアゼイロ間 451km

Ferrovía Transnordestina (321)

東北(トランスノルデスチーナ)鉄道

新路線建設:ベルナンブーコ州ベトロリーナ〜ミッソン・ヴェーリャ間(サルゲイロ経由) 350km

セアラ州クラテウス〜ピケ・カルネイロ間 179km

Malha Ferroviária do Nordeste, entre Mossoró e Souza (321)

東北の鉄道網 — モソロー — ソウザ間

242kmの単線の信号システムの改修と改善

Malha Ferroviária do Nordeste, entre São Luís e Teresina (321)

東北の鉄道網 — サン・ルイス — テレジーナ間

442kmの単線の路盤、信号システム及び通信システムの改修、及び線路間隔の異なった電車の接合地点(km59地点)を建設

Malha Ferroviária do Nordeste, entre Salgueiro e Recife e entre Teresina, Altos e Crateús (321)

東北の鉄道網 — サルゲイロ — レシーフェ間、及びテレジーナ—アルトス—クラテウス間

サルゲイロ—レシーフェ間(595 km)及びテレジーナ—アルトス—クラテウス間(296 km)の全長 891kmの既存線路の改修

BR-020/PI (321)

国道 BR-020 号/ピアウイー州

ピーコス — サン・ライムンド・ノナート間の舗装の補助

BR-324/PI (321)

国道 BR-324 号/ピアウイー州

エリゼウ・マルチンス — ウルスイー間の舗装

BR-407/BA (312)

国道 BR-407 号/バイア州

ジュアゼイロ — セニョール・ド・ボンフィン間 132kmの複線化

BR-116/324/BA (312)

国道 BR-116/324 号/バイア州

20km複線化; フェイラ・デ・サンターナの東北外縁を含む

BR-135/BA (312)

国道 BR-135 号/バイア州

バヘイラス — ギルブエス間 70kmの舗装

BR-135/BA (312)

国道 BR-135 号/バイア州

サン・デジデーリオ — コヘンチーナ間 115kmの自動車道(単線)を建設

BR-232/PE (321)

国道 BR-232 号/ベルナンブーコ州

レシーフェ — カルアルー間 120kmの複線化

BR-101/RN/PB/PE/AL/SE (321)

国道 BR-101 号/リオ・グランデ・ド・ノルテ州/パラíba州/ベルナンブーコ州/アラゴアス州/セルジペ州

ナタール — アラクジュ — 間の複線化(レシーフェを経由するイガラスー — カーボ・デ・サント・アゴスチーニョ間

はすでに複線化済み)。優先区間:アラゴアス州メシーアス(国道 BR-104 号入り口)〜サン・ミゲル・ドス・カンボ

ス(州道 AL-220 号入り口)間、マセイオー市近辺、3つの独立した立体交差接続点建設;ベルナンブーコ州イガラスー

〜パラíba州ジョアン・ベソーア間 82kmの単線道路、及び20の立体交差接続点の改良;アラカジュ〜サン・ミゲ

ル・ドス・カンボス間 200km、及びメシーアス〜ベルナンブーコ州カーボ・デ・サント・アゴスチーニョ間 180km

BR-222/CE (321)

国道 BR-222 号/セアラ州

セアラ州クカイア(国道 BR-020 号入り口)からセアラ州 イミリン(国道 BR-402 号入り口)間の 88kmの複線化

BR-116/CE (321)

国道 BR-116 号/セアラ州

セアラ州フォルタレーザ — バカジュース(国道 BR-116 号入り口)〜セアラ州ショロジーニョ(国道 BR-122 号

入り口)間 19kmの単線道路を複線化

Energia
エネルギー

UHE Sacos (230)

サッコス水力発電所

サンタ・マリア・ダ・ピトリアに近接したフォルモーソ川に位置する、水力発電所（114MW）を建設

UHE Itapebi (230)

イタペビ水力発電所

イタペビに近接したジェキチニョーニャ川に位置する、水力発電所（450MW）を建設

UTE NE II (230)

NE II 火力発電所

サルバドル市に位置する、ガス火力発電所（360MW）を建設

UTE Carmópolis (230)

カルモーポリス火力発電所

セルジペ州カルモーポリスに近接し、天然ガス火力発電所（80MW）

UTE Pecém (230)

ペセン火力発電所

フォルタレーザに近接した、単独サイクルのガス火力発電所（240MW）の建設；天然ガスはベルナンブーコ州スアーベから来る沿岸ガスパイプラインより供給される

UTE Cosern (230)

コセルン火力発電所

ナタール近辺において 100MW の能力を持ち、単独サイクルによる天然ガス火力発電所を建設。ガスは液状で船で運ばれ、スアーベ港にて気体にもどされる

UTE Suape (230)

スアーベ火力発電所

ベルナンブーコ州スアーベ港にて天然ガスによる火力発電所（240MW）を建設

UTE Trikem (230)

トリケン火力発電所

アラゴアス州マセイオー近郊にて天然ガスによる火力発電所（100MW）を建設

UTE Cabedelo (230)

カベデーロ火力発電所

パライーバ州カベデーロ港近郊にて天然ガスによる火力発電所（300MW）を建設

UTE Alto Rodrigues (230)

アルオ・ロドリゲス火力発電所

リオ・グランデ・ド・ノルテ州アレイア・ブランカ近郊にて天然ガスによる火力発電所（230MW）を建設

UTE Macau (230)

マカウ火力発電所

リオ・グランデ・ド・ノルテ州マカウ近郊にて天然ガスによる火力発電所（270MW）を建設

LT Camaçari a Funil (230)

カマサリ及びフニール送電線

230kV の第4送電線によりサルバドルの南の電力供給を強化する。既存の回路を拡大し、延長 301km とする

LT Poções a Brumado II (230)

ポソーンエスからブルマード II までの送電線

230kV、145km の送電線（第1回路）によりバイア州ヴィトーリア・ダ・コンキスタの西地域の電力供給を強化する

LTs de Imperatriz a Fortaleza (230)

インペラトリスからフォルタレーザまでの送電線

500kV、合計延長 1130km の一連の送電線で、セアラ州ソラル変電所を經由し、南北及び北・東北とフォルタレーザ電力供給センターとの接続を強化する。プレジデンテ・ツートラ変電所からフォルタレーザまで 741km（第一回路）及びプレジデンテ・ツートラからインペラトリスまで 388km（第二回路）

LT de Paulo Afonso a Fortaleza (230)

パウロ・アフォンソからフォルタレーザまでの送電線

230kV、640km の既存の送電線を 500kV に変換。南北、及び北・東北地域とフォルタレーザ電力供給センターとの接続を強化する

LTs de Banabuiu a Natal (230)

バナブイウからナタールまでの送電線

230kV、合計延長 995km の一連の送電線で、北・東北地域とフォルタレーザ電力供給センターとの接続を強化する

Telecomunicações
遠距離通信

Telefonia Fixa (201) [3,500.0]

固定電話
新ターミナル 390 万設置

Telefonia Pública (201) (205) [332.0]

公衆電話
新ターミナル 25.5 万設置

Telefonia Móvel (203) [1,856.0]

携帯電話
新ターミナル 330 万設置

Comunicação de Dados (204) [67.9]

データ処理
新アクセス 430 万設置

Radiochamada (Paging) (204) [97.3]

ポケットベル (Paging)
新アクセス 67.1 万設置

Trunking (204) [39.8]

Trunking
新アクセス 13.72 万設置

Conexão entre Salvador e Recife (204) [50.0]

サルバドル — レシーフェ間の接続
2.5 Gbps の光ケーブルによる接続を海底ケーブルで行う

Conexão entre Salvador e Recife (204) [50.0]

サルバドル — レシーフェ間の接続
10 Gbps の光ケーブルによる接続を海底ケーブルで行う

Conexão entre Recife e Fortaleza (204) [40.0]

サルバドル — フォルタレーザ間の接続
2.5 Gbps の光ケーブルによる接続を海底ケーブル(レシーフェ/ナタール)及び自動車道ケーブルで行う

Recursos Hídricos

水資源

Adutoras e Canais (129)

水道管と水路

AL:Pão de Açúcar-Olho D'Água das Flores, Alto Sertão, Agreste, Sertão Alagoano
アラゴアス州:パン・デ・アスカール - オーリョ・ダーグア・ダス・フローレス、アルト・セルトン、アグレステ、セルトアラゴアーノ

BA:Rio do Paulo, Truvisco, Feijão (4ª etapa), Ampliação da Adutora do Sisal, Canal Adutor da Serra da Batateira
バイア州:リオ・ド・パウロ、トルビスコ、フェジョン (第4期)、シザール水道管の拡張、セーラ・ダ・バタテイラ 水路

CE:Eixos de Integração Jaguaribe-Icapui
セアラ州:ジャグアリーベ — イカプイ 統合枢軸

PB:Patos, Congo
パライーバ州:パトス、コンゴ

PE:Jucazinho, Pajeú, Carpina, Sertão Pernambucano, Adutora do Oeste
ペルナンブーコ州:ジュカジーニョ、パジェウ、カルピーナ、セルトン・ペルナンブカーノ、オエステの水道管

PI:Petrônio Portela, Acauã do Oeste, Eixo de Integração dos Rios São Francisco/Piauí, Bocaina
ピアウイー州:ペトロニオ・ポルテラ、アカウアン・ド・オエステ、サン・フランシスコ川/ピアウイー州・ボカイーナ川の統合枢軸

RN:Caicó

リオ・グランデ・ド・ノルテ州:カイコー

SE:Interligação e Ampliação do Sistema Adutor Piauitinga, Interligação e Ampliação do Sistema Adutor Agreste, Dois Irmãos, Ampliação da Adutora do São Francisco
セルジューペ州:ピアウイチンガ水道管システムの接続及び拡大、アグレステ、ドイス・イルモンズ水道管システムの接続及び拡大、サン・フランシスコ水道管の拡大

Barragens e Adutoras (129)

ダムと水道管

BA:Catolé Grande, Brumado, Itabuna, Baraúna, Pindobaçu
バイア州:カトレ・グランデ、ブルマード、イタブナ、バラウーナ、ピンドバスター

MG:Congonhas, Berizal
ミナス・ジェライス州:コンゴニャス、ベリザル

PB:Acauã, Aracaji, Barra do Camará, Mucutu, Mumbamba
パラíba州:アカウアン、アラカジ、バーラ・ド・カマラー、ムクツウ、ムンバンバ

PE:Pirapama
ペルナンブーコ州:ピラパーマ

PI:Pedra Redonda
ピアウイー州:ペドラ・レドンダ

ダム

BA:Pedra Branca, Pedras Altas, Bandeira de Melo
バイア州: ペドラ・ブランカ、ペドラス・アルタス、バンデイラ・デ・メーロ

CE:Castanhão, Arneiroz, Taguara, Figueiredo
セアラ州:カスタンニョン、アルネイロス、タクアーラ、フィゲイレド

MG:Jequitaí, Rio das Velhas, Paracatu
ミナス・ジェライス州:ジェキタイ、リオ・ダス・ベリャス、バラカツ

PB:Almas
パラíba州:アルマス

PI:Jenipapo, Salinas, Algodão II, Caldeirão, Tinguís, Rangel/Contrato, Mesa de Pedra
ピアウイー州:ジェニパーポ、サリーナス、アルゴダン II、カルデイロン、チングイス、ランジェル・コントラト、メーザ・デ・ペードラ

RN:Santa Cruz do Apodi, Umari
リオ・グランデ・ド・ノルテ州:サンタ・クルース・ド・アポジ、ウマリ

SE:Vasa Barris
セルジーベ州:ヴァーザ・バヒス

Irrigação

灌漑

AL:Marituba, Pindorama
アラゴアス州:マリツバ、ピンドラーマ

BA:Iuiu-Sul, Baixo do Irecê (1ª e 2ª Etapas), Salitre, Cruz das Almas
バイア州:イウイウ・スール、バイショ・ド・イレセ (第一期、第二期)、サリトレ、クルース・ダス・アルマス

CE:Tabuleiro de Russas, Baixo Acaraú, Araras Norte, Jaguaribe-Apodi
セアラ州:タブレイロ・デ・ルーサス、バイショ・アカラウ、アララス・ノルテ、ジャグアリーベ - アポジ

MG:Jaíba
ミナス・ジェライス州:ジャイーバ

PB: Várzea de Souza
パラíba州:ヴァルゼア・デ・ソウザ

PE:Pontal, Pontal Sobradinho, Brejo de Santa Maria, Serra Talhada
ペルナンブーコ州:ポントアル、ポントアル・ソブラジーニョ、プレージョ・デ・サンタ・マリア、セーラ・タリャーダ

PI:Guadalupe (2ª etapa), Tabuleiros Litorâneos (2ª etapa)
ピアウイー州:グアルダルーベ (第二期)、タブレイロス・リトラネオス (第二期)

RN: Mendubim
リオ・グランデ・ド・ノルテ州:メンツビン

SE: Jacarecica, Jacaré-Corutuba
セルジーベ州:ジャカレシーカ、ジャカレ・コルツバ

Água Subterrânea (129) (279)

地下水

BA: Tucano
バイア州:ツカーノ

PB: João Pessoa
パラíba州:ジョアン・ペソア

PE :Jatobá

ペルナンブーコ州:ジャトバー

Região NE :Recuperação, Dessalinização e Implantação de Poços
東北地方改修、塩分抜き取り、井戸掘り

Transposição de Bacias (131) (129)
流域の転位

PE CE RN PB:Transposição de Águas do Rio São Francisco
ペルナンブーコ州 :セアラ州 リオ・グランデ・ド・ノルテ州 パライーバ州 サン・フランシスコ川の水の転位

CE PI:Eixo de Integração do Ibiapava
セアラ州: ピアウイー州イピアバーバ統合枢軸

Recuperação de Infra-Estrutura Hídrica (129)
水源インフラストラクチャー回復

Região NE:Recuperação de Barragens, Açudes e Adutoras
東北地方:ダムの回復、貯水池、水道管

Desenvolvimento Social 社会開発

EDUCAÇÃO (095) (099) (102) [3,240.1]

教育

基礎教育の保証

基礎教育を終了せず、通学していない7歳から14歳までの児童を対象とした奨学金
生徒数 110万人

基礎教育を終了していない15歳から24歳までの青少年を対象とした特別プログラム
生徒数 79.2万人

14歳以上でいまだに基礎教育を受けている少年を対象としたクラス
生徒数 260万人

2000年~2007年の期間に対する受け入れ可能な生徒数の増加
100万席

基礎教育のための教員資格を持たない代用教員の能力養成
教員 13.4万人

SAÚDE (183) (198) (174) (189) (088) [4,849.8]

保健

保健の普遍的利用の保証

家庭保健プログラム及び保健普及員

2000/02年 - 住民の 50% を対応: 2300万人

2003/04年 - 住民の 70% を対応: 3300万人

2005/06年 - 住民の 80% を対応: 3850万人

2007年 - 住民の 100% を対応: 4860万人

風土病、衛生、環境、伝染病、流行病コントロール

2007年までの対象住民数: 4860万人

病院ベッド数

現在の不足数及び2000~2007年の推定需要を満たすための3.3万台

医師

現在の不足数及び2000~2007年の推定需要を満たすための1万名

HABITAÇÃO (348) (347) (345) [3,187.0]

住居

最低給料の3倍以下の収入の家庭への住居の提供

1997~2007年の推定需要を満たすための新住居75.1万戸

SANEAMENTO (341) [7,882.8]

衛生

すべての住居に対する上下水道の普及とゴミ収集の拡大

Água

上水

すべての住居に対する水供給

現在の不足数及び2000~2007年の推定需要を満たすための600万戸

Esgoto

下水

下水網の拡大—現在の都市住居の13%から25%に拡大
2007年までに380万戸対応

Lixo

ゴミ

ゴミ収集システムを拡大し全住居の60%までに対象を拡大
2007年までに430万戸対応

Informação e Conhecimento [240.0]
情報及び知識

Reestruturação Produtiva (011 cacau) (001 açúcar)

生産再構成

砂糖区域及びココア地域の生産再構築を目的とした調査

Desenvolvimento do Turismo (112) (263) (304)

観光開発

人材育成、管理プロセスの改善、市場情報、及び観光宣伝

Uso Racional dos Recursos Hídricos (129) (276) (131) (278) (277) (283) (049)

水資源の合理的利用

水資源の需要と供給の調査、及び流域統合；

サン・フランシスコ川の上流及び中流における流出量の拡大に関する選択肢の調査；

東北地方の地理情報調査；

塩分抜き取り技術開発及び地下水利用；

土地利用特定を目的とした農業環境マクロ区画化の定義づけ

供給の最良化、及び半乾燥地域における水資源、特に飲料水としての利用に関する流域管理プロセスの改善；

灌漑農業に関する人材育成

Desenvolvimento da Agricultura Irrigada (026 fruticultura) (027 Olericultura)

灌漑農業開発

果実栽培及び穀物栽培の競争性向上を目的とした研究及び開発

Adaptação de Espécies ao Semi-Árido (041)

半乾燥地域に品種を適合化させる

灌漑不可能半乾燥地域における動物及び植物の品種の適合を目的とした研究及び開発

Desenvolvimento Industrial (124) (046)

工業開発

東北地方の工業の競争性向上を目指した人材育成、研究及び開発

Incubadoras e Parques Tecnológicos (037)

インキュベーター及び技術パーク

ハイレベル技術のマイクロ企業の設立と開発を目指したインキュベーター及び技術パークの樹立

Desenvolvimento de Serviços (124) (046)

サービス開発

主要大都市におけるソフトウェア、保健、教育、文化産業等の近代的サービスに対する研究、開発、及び人材育成

Desenvolvimento do Setor de Minerais Não-Metálicos (236)

非金属鉱物分野の開発

自然石などの非金属鉱物製品の加工に関する研究と開発

Meio Ambiente
環境

Combate à Desertificação (265) (276) [500.0]

砂漠化対策

Recuperação da Caatinga (265) (276) [40.0]

カアチンガ回復

Ecoturismo Local Integrado (263) (254) (272) [11.6]

地域的環境ツアー統合

Pólos Ecoturísticos em Parques Nacionais	(263)	(272)	[96.0]
国立公園の環境ツアー拠点			
Expansão e Preservação da Base Florestal	(280)	[311.0]	
森林地帯の拡大と保存			
Aproveitamento de Recursos Hídricos Subterrâneos	(276)	[320.0]	
地下水資源の利用			
Gestão Integrada da Bacia do Rio Piranha-Açu	(131)	(276)	[150.0]
ピラーニャ・アスー川流域の統合的管理			
Agenda Positiva para o Uso Sustentável dos Recursos Pesqueiros Marinhos	(284)	[84.0]	
海産資源の持続的利用に関するポジティブ・スケジューリング			
Diversificação da Cadeia Produtiva Algodão/Têxtil: Mercado Verde	(243)		[5.0]
綿・織物の生産連鎖の多様化：緑市場			
Frutas do Nordeste	(026)	[10.0]	
東北地方の果実			
Pólo de Difusão de Práticas Sustentáveis (Gestão de Espaços e Recursos Costeiros para o Delta do Parnaíba, Lençóis Maranhenses e Outras Áreas; Desenvolvimento Sustentável da Caatinga; Polígono do Descobrimento; Áreas Impactadas por Barragens)	(270)	[14.0]	
持続的活動の普及拠点（デルタ・ド・パラナイバ、レンソーイス・マラニェンセ、その他の地域のスペース及び沿岸資源管理；カアチングの持続的開発；ポリゴの・ド・デスコプリメント；ダムによるインパクト地域）			
Utilização Sustentável de Palmeiras Nativas e Adaptadas	(265)	(270)	[20.0]
原生林及び適応する椰子の木の持続的利用			
Raças Nativas de Animais Domésticos	(266)	[30.0]	
家畜の自然種類			

EIXOS DO CENTRO-OESTE- ARAGUAIA-TOCANTINS E OESTE
中西枢軸-アラグアイア — トカンチンス 及び 西地方

Transportes [15,135.8]
運輸

Aeroporto de Brasília (076)

ブラジリア空港

旅客ターミナル、貨物ターミナル、及び国際空港対応のための航空機エプロンの拡張；新滑走路建設

Aeroporto de Goiânia (076)

ゴイアニア空港

新旅客ターミナル、航空機用新エプロン及び航空機誘導路を建設；滑走路拡張

Aeroporto de Palmas (076)

パルマス空港

トカンチンス州パルマス市に新空港建設

Aeroporto de Bonito (076)

ボニート空港

南マット・グロッソ州ボニート近辺に新空港建設

Dragagem do Rio das Mortes (328)

モルテス川の浚渫

ノバ・シャバンチーナからサン・フェリックス間の浚渫と岩の取り出し

Eclusa na UHE Lajeado (328)

ラジェアード水力発電所の堰

ラジェアード水力発電所に転位用堰を建設

Transposição da Hidrelétrica de Tucuruí (328)

ツクルイー水力発電所の転位

中間水路で結ばれた2つの堰を建設

Transposição das Corredeiras de Santa Isabel do Araguaia (328)

サンタ・イザベル・ド・アラグアイアの早瀬の転位

アラグアイア川のサンタ・イザベル早瀬を避けるため、全長14km、高低差13mの水路を建設

Hidrovia Teles Pires-Juruena-Tapajós (320)

テレーズ・ピーレス — ジュルエーナ — タバジョース航路

サン・ルイス・ド・タバジョースの滝とブブレーの間に堰をもった23kmの水路、岩の取り出し、浚渫、航路標識を含む1043kmの航路を樹立

Hidrovia Paraguai-Paraná (319)

パラグアイ — パラナ 航路

タメンゴ水路の浚渫及びカーセレス — コロンバー間の公開の支援

Porto Hidroviário de Cáceres (319)

カーセレス航路の港

港の適正化と拡張

Porto de Itaquí - Terminal de Contêineres (328)

イタキー港 — コンテナ用ターミナル

2つの船架をコンテナ取り扱い用に適合させる

Terminais no Rio Araguaia (328)

アラグアイア川のターミナル

ルイス・アルベス（ゴイアス州）、サン・フェリクス・ド・アラグアイア（マット・グロッソ州）、サンタ・テレジーニャ（ゴイアス州）に航路ターミナルを建設

Terminais no Rio Tocantins (328)

トカンチンス川のターミナル

ミラセマ・ド・トカンチンス（トカンチンス州）、ペドロ・アフォンソ（トカンチンス州）、カロリーナ（マラニオン州）、ポルト・フランコ（マラニオン州）、及びベイシェ（トカンチンス州）に航路ターミナルを建設

Terminais de Soja (328)

大豆ターミナル

アルサンとノバ・シャバンチーナに大豆ターミナルを建設

Terminais de Soja e Cimento (328)

大豆及びセメントターミナルを建設

大豆とセメントのターミナルをシャンピオアーに建設

Terminal de Grãos em Cachoeira Rasteira (328)

カシヨエイラ・ラステイラに穀物ターミナル

カシヨエイラ・ラステイラに荷下ろし及び貯蔵ターミナルを建設

Ferrovía Norte-Sul (328)

南北鉄道

ゴイアニアからエストレイト間全長 1466km の新鉄道を建設

Ferrovía Xambioá a Estreito (328)

シャンピオアー — エストレイト間鉄道

全長 165km の新鉄道を建設

Malha Ferroviária Oeste (319)

西鉄道網

コロンバー — パウルー間 1300km の単線の信号システムの改修と設置、6km の橋、及び 24km の支線の建設。南マツト・グロッソ州の都市の移転を防止する迂回路を建設

Ferronorte (319)

フェーロノルテ

アルト・タクアリ — クイアバ間 525km の新鉄道建設

BR-226/TO (328)

国道 BR-226 号/トカンチンス州

ヴァンデルランジア — エストレイト間 72km 単線自動車道の改修

国道 BR-010/MA (328)

国道 BR-010 号/マラニョン州

エストレイト — インペラトリス間 118km 単線自動車道の改修

TO-296 (328)

州道 TO-296 号

トカンチンス州バラナンと国道 BR-153 号(ベレン — ブラジリア)をトカンチンス州アルポラダ市地点で結ぶ 170km の自動車道。舗装する区間:バラナン — サン・サルバドルを 55km の自然道床;建設する区間:サン・サルバドル — アルポラダ間 115km

BR-158/MT

国道 BR-15 号/マツト・グロッソ州

マツト・グロッソ州とパラ州の境界線に位置するリベイロン・カスカリエイラの既存の不十分なルートに沿って 423km の単線自動車道を建設

BR-060/MS (319)

国道 BR-060 号/マツト・グロッソ州

シャパドン・ド・スールからセハーボリスまでフェーロノルテ鉄道に供給する 150km の自動車道の舗装

BR-330/MA-006/PI-254 (321)

国道 BR-330/MA-006 号/ 州道 PI-254 号

バルサス — ギルブエス間 373km の舗装の補助。219km はすでに舗装済みで、マラニョン州とピアウイー州の境界線からギルブエスまでの 154km(州道 PI-254 号)が残っている。

Rodovias Alimentadoras de Terminais nos Rios Araguaia e das Mortes (328)

アラグアイア川及びダス・モルテス川のターミナルに供給する自動車道

次の自動車道合計 318km の舗装:

サン・ミゲル・ド・アラグアイア — ルイス・アルベス間の州道 GO-244 号/国道 BR-080 号、51km

サン・フェリックス・ド・アラグアイア — 国道 BR-158 号間の国道 BR-242 号、114km

サンタ・テレジーニャ — 州道 MT-413 号間の州道 MT-431 号、28km

州道 MT-431 号 — 州道 MT-432 号間の州道 MT-413 号、45km

州道 MT-413 号 — ガメエイラ蒸留所間の州道 MT-432 号、80km

ノバ・シャバンチーナ — パラナチンガ間の国道 BR-251 号 130km を建設

BR-153/GO e BR-365/MG (313)

国道 BR-153 号/ゴイアス州 及び 国道 BR-365 号/ミナス・ジェライス州

アバレシーダ・デ・ゴイアニア — モンテ・アレグレ・デ・ミナス 間 240km の国道 BR-153 号 (国道 BR-365 号との接続点) の複線化、及びモンテ・アレグレ・デ・ミナス — ウベルランジア間 100km の国道 BR-365 号の複線化

BR-060/DF-GO (328)

国道 BR-060 号/連邦区 — ゴイアス州

連邦区タグアチンガ市~ゴイアス州アナポリス市間の 128km の複線化

MT-170 (126)

州道 MT-170 号

カンボ・ノボ・ド・バレスス~ジュイーナ、及びコトリグアス~間の 555km を舗装

MT-319 (126)

州道 MT-319 号

ヴィリェーナ~ジュイーナ間 245km の舗装

MT-235 (126)**州道 MT-235 号**

コモドロ — カンボ・ノボ・ド・バレス間、州道 MT-70 号から国道 BR-174 号まで 256km の舗装及び橋 600m の建設

BR-364/MT (126)**国道 BR-364 号/マット・グロッソ州**

クイアバ — ロンドノッポリス間の自動車道 210km の複線化、及びサン・ピセンテ山脈に迂回路 20km を建設

Várias Estradas Agrícolas ao Norte e Leste de Mato Grosso (328)

マット・グロッソ州の北部及び東部における様々な農業道路

次の自動車道合計 1023km の舗装：

アルタ・フロレスタ — バンデイランテス間 272km (アピアカス、バラナイタへのアクセスを含む) の州道 MT-208 号

サンタ・エレナ — マツパー間の国道 BR-163 号: 71 km

国道 BR-163 号 — マルセラランジア間の州道 MT-423 号: 114 km

シノブ — サンタ・カルメン間の 州道 MT-442 号間: 33km

アピアカス — カショエイラ・ラステイラ間の州道 MT-160 号: 150 km

ジュアラ — ノバ・バンデイランテス間の州道 MT-338/208: 211 km

BR-267/MS (319)**国道 BR-267 号/南マット・グロッソ州**

リオ・プリリヤンテ (南マット・グロッソ州) から国道 BR-419/060 号までの 175km を改修

BR-163/MT (328)**国道 BR-163 号/マット・グロッソ州**

クイアバ — シノブ間 (km520 地点 — km950 地点間) の国道 BR-163 号 430km の改善と改修

Várias Rodovias no Oeste: 国道 BR-174/MT, 国道 BR-364/MT, 国道 BR-364/RO

西の様々な自動車道: 国道 BR-174 号/マット・グロッソ州、国道 BR-364 号/マット・グロッソ州、国道 BR-364 号/ロンドニア州 (320)

国道 BR-174 号/マット・グロッソ州の多数の地点の改良 (カーセレス — コモドロ間、km8 地点から km520 地点まで)、国道 BR-364 号/マット・グロッソ州 (km0 地点から km121 地点; アルト・アラグアイア — ロンドノッポリス) 及び国道 BR-364 号/ロンドニア州 (km0 地点から km14 地点まで、km36 地点から km78 地点まで、km90 地点から km109 地点まで、km480 地点から km525 地点まで; ヴィリエーナ — ジャマリ)

MT-220/MT-325 (126)**州道 MT-220 号/州道 MT-325 号**

州道 MT-220 号の 53km、州道 MT-325 号の 56km、ジュレーナ及びジュアラの監視所の舗装

MS-178 (319)**州道 MS-178 号**

南マット・グロッソ州ポニートから国道 BR-267 号との接続点まで州道 MS-178 号の 45km 舗装

MT-070 (319)**州道 MT-070 号**

マット・グロッソ州カーセレス — ポリビアのサン・マチアス間の州道 MT-070 号の 86km 舗装

Energia**エネルギー****UHE Serra do Facão (216)****セーラ・ド・ファルコン水力発電所**

カタロン市に近接したサン・マルコス川に位置する、水力発電所 (210MW) を建設

UHE Serra Quebrada (216)**セーラ・ケブラーダ水力発電所**

インベラトリス市の南に位置する、水力発電所 (1328MW) を建設

UHE Tucuruí Etapa 2 (216)**ツクルイー水力発電所第二期**

トカンチンス川ツクルイー市に近接する水力発電所の拡張。既存の発電所に 11 のタービンの増設、新しい動力室の設置、能力を 4125MW 増加させる

UHE Peixe (216)**Peixe 水力発電所**

トカンチンス川トカンチンス州ベイシェ市に近接した堰を含む水力発電所 (1106MW) を建設

UHE Tupiratins (216)**水力発電所 Tupiratins**

トカンチンス川トカンチンス州ツピラチンス市に近接した堰を含む水力発電所 (1000MW) を建設を建設

UHE Estreito (216)

エストレイト水力発電所

トカンチンス川マラニョン州エストレイト市に近接した堰を含む水力発電所 (1200MW) を建設

UHE Ponte de Pedra (232)

ポンテ・デ・ペードラ水力発電所

コレンテス川の国道 BR-163 号との交差点 (ロンドノッポリス南方約 100 キロ) に位置した水力発電所 (176MW) を建設

UHE Guaporé (232)

グアポレー水力発電所

カーセレス北西 200km に位置したグアポレー川の水力発電所 (120MW)

UHE Itiquira I & II (232)

イチキーラ水力発電所 I & II

マット・グロッソ州クイアバ市南方約 200km に位置した 2 つの水力発電所 (156MW)

UHE Couto Magalhães (216)

コウト・マガリャンエス水力発電所

アラグアイア川に位置した水力発電所 (220MW) を建設

UTE Campo Grande I (232)

カンボ・グランデ I 火力発電所

南マット・グロッソ州カンボ・グランデ市にガス火力発電所 (300MW) を建設; ガスはボリビアブラジルガスパイプラインより供給

UTE Corumbá I (232)

コルンバー I 火力発電所

南マット・グロッソ州コルンバー市にガス火力発電所 (150MW) を建設; ガスはボリビアブラジルガスパイプラインより供給

LTs da UHE Cana Brava a Serra da Mesa e Flores (216)

カーナ・ブラバ水力発電所からセーラ・ダ・メーザ及びフローレスまでの送電線

230kV の送電線 2 本及びそれに関連した変電所:

- セーラ・ダ・メーザからフローレスまで 176km
- セーラ・ダ・メーザからカーナ・ブラバ水力発電所まで 50km

LT de Nobres a Sinop (232)

ノブレス — シノブ間送電線

230 kV、345km の送電線により既存の送電線を複線化し、シノブまでの北部の電力供給を強化する。

LT de Sinop a Juína (232)

ノブレス — ジュイーナ間送電線

ジュアラ郡とジュイーナ郡を南・東南送電網に接続する 138 Kv (第一回路)、410km の送電線、及び変電所

LT de Colider a Matupá/MT (232)

マット・グロッソ州コリデーラ — マツパ間の送電線

138 Kv (第一回路)、100km の送電線

Telecomunicações

遠距離通信

Telefonia Fixa (201) [2,006.0]

固定電話

新ターミナル 230 万設置

Telefonia Pública (201) (205) [154.3]

公衆電話

新ターミナル 11.8 万設置

Telefonia Móvel (203) [1/015.0]

携帯電話

新ターミナル 230 万設置

Comunicação de Dados (204) [33.6]

データ処理

新アクセス 2.1 万設置

Radiochamada (Paging) (204) [59.9]

ポケットベル (Paging)

新アクセス 41.3 万設置

Trunking (204) [24.7]

Trunking
新アクセス 8.5 万設置

Conexão entre Brasília e Belém (204) [125.0]

ブラジリア — ベレン接続
2.5 Gbps の光ケーブルによる接続をアナポリス、ゴイアニア、バルマス、インペラトリス、アサイランジア、サンタ・イネースを経由して行う

Informação e Conhecimento [200.0]
情報と知識

Desenvolvimento da Agropecuária (132) (248) (006)

農業畜産開発
当地域の蛋白質複合体（畜牛、穀類）のより高い競争性をめざした労働者の育成、情報へのアクセス、新しい管理手法の研究、開発、利用

Diversificação da Agropecuária (132) (005) (006) (248)

農業畜産の多様化
当地域へより高い付加価値を持ち、多くの職業と収入をもたらす他の生産物を導入する事を目的とした研究と開発

Desenvolvimento da Agroindústria (132) (005) (248) (049)

アグロインダストリー開発
畜産物及び穀物を加工・変換し、当地のアグロインダストリー活動のより高い国際化を目指した調査及びプロジェクト

Desenvolvimento do Ecoturismo (272) (304)

環境ツアー開発
様々な形式の環境ツアーに関し、インフラストラクチャー、サービス、人材育成に投資する必要性を調査する

Exploração Sustentável do Pantanal (269)

パンタナルの持続的利用
生態系保存及び生物多様性の合理的経済利用を目的とした研究と開発

Sustentabilidade dos Cerrados (005)

セラードの持続性
持続的経済利用を目的としたセラードの特定と分析プログラム

Aproveitamento dos Recursos Pesqueiros (023)

漁業資源利用
特にパンタナルとアラグアイア川、トカンチンス川流域に関し、養殖、漁業技術、漁獲物の保存法等の開発、生物サイクルに重要な水没地域の地図作成及び保存、持続的開発に必要人材育成

Logística (046) (248)

ロジスティック
ロジスティックに関する研究、開発、人材育成

Desenvolvimento Social
社会開発

EDUCAÇÃO (095) (099) (102) [1,335.3]

教育
基礎教育の保証

7 歳から 14 歳までの児童を対象とした奨学金
生徒数 35.4 万人

基礎教育を終了していない 15 歳から 24 歳までの青少年を対象とした特別プログラム
生徒数 16.1 万人

14 歳以上でいまだに基礎教育を受けている少年を対象としたクラス
生徒数 97 万人

2000 年～2007 年の期間に対する受け入れ可能な生徒数の増加
61.8 万席

基礎教育のための教員資格を持たない代用教員の能力養成
教員 10.4 万人

SAÚDE (183) (198) (174) (189) (088) [1,465.0]

保健
保健の普遍的利用の保証

家庭保健プログラム及び保健普及員
 2000/02年 - 住民の 50% を対応: 940 万人
 2003/04年 - 住民の 70% を対応: 1360 万人
 2005/06年 - 住民の 80% を対応: 1600 万人
 2007年 - 住民の 100% を対応: 2040 万人

風土病、衛生、環境、伝染病、流行病コントロール
 2007年までの対象住民数: 2040 万人

Leitos Hospitalares

病院ベッド数
 現在の不足数及び 2000~2007 年の推定需要を満たすための 2.2 万台

Médicos

医師
 現在の不足数及び 2000~2007 年の推定需要を満たすための 6 千名

HABITAÇÃO (348) (347) (345) [1,174.6]

住居

最低給料の 3 倍以下の収入の家庭への住居の提供
 1997~2007 年の推定需要を満たすための新住居 39.4 万戸

SANEAMENTO (341) [2,139.2]

衛生

すべての住居に対する上下水道の普及とゴミ収集の拡大

Água

上水

すべての住居に対する水供給
 現在の不足数及び 2000~2007 年の推定需要を満たすための 290 万戸

Esgoto

下水

下水網の拡大—現在の都市住居の 35%に拡大
 2007 年までに 210 万戸対応

Lixo

ゴミ

ゴミ収集システムを拡大し全住居の 50%までに対象を拡大
 2007 年までに 180 万戸対応

Meio Ambiente

環境

Fitofármacos e Cosméticos da Amazônia (265) [15.0]

アマゾンの植物薬剤及び化粧品

Raças Nativas de Animais Domésticos (266) [15.0]

家畜の自然種類

Ecoturismo Local Integrado (260) (254) (272) [11.6]

統合的環境ツアー

Pólos Ecoturísticos em Parques Nacionais (260) (272) [56.0]

国立公園における環境ツアー拠点

Turismo Verde (281)

エコツアー

Gestão Integrada de Recursos Florestais na Amazônia (273) [150.0]

アマゾン森林資源の統合的管理

Monitoramento e Controle do Arco do Desflorestamento (Proarco) (271) [16.6]

森林伐採アーチ(Proarco)のモニタリングと管理

Gestão Integrada de Bacias dos Rios Araguaia e Tocantins (282) [200.0]

アラグアイア川及びトカンチンス川流域の統合的管理

Agenda Positiva para o Uso Sustentável dos Recursos Pesqueiros Marinhos (284) [28.0]

海産資源の持続的利用に関するポジティブ・スケジュールリング

Gestão dos Recursos Pesqueiros das Bacias dos Rios Araguaia e Tocantins (284) [7.5]

アラグアイア川及びトカンチンス川流域の漁業資源の統合的管理

Pesca Esportiva (270)	[10.0]	
スポーツ・フィッシング		
Frutas dos Cerrados (026)	[30.0]	
セラードの果実		
Pólo de Difusão de Práticas Sustentáveis (Produtos do Cerrado, Mineração, Populações Tradicionais) (270)	[8.4]	
持続的活動の普及拠点 (セラード産物、鉱山、原住民)		
Povos da Floresta e Reservas Extrativistas (265)	[20.0]	
森林及び採取保護区域の住民		
Utilização Sustentável de Palmeiras Nativas e Adaptadas (265) (270)	[20.0]	
原生林及び適応する椰子の木の持続的利用		
Espécies da Fauna Brasileira com Potencial Positivo (266)	[15.0]	
ポジティブ・ポテンシャルを持つブラジル動物相の種類		
Centros de Referência Ambiental do Cerrado (270)	[2.8]	
セラードの環境照会センター		
Gestão Integrada da Bacia do Alto Paraguai (269)	[190.0]	
アルト・パラグアイ流域の統合的管理		
Gestão Integrada dos Recursos Pesqueiros da Bacia Amazônica (284)	[5.0]	
アマゾン川流域の漁業資源の統合的管理		
Desenvolvimento Sustentável do Vale do Guaporé (265)		
グアボレー溪谷の持続的開発		
Desenvolvimento Sustentável do Pantanal (269)	[500.0]	
パンタナルの持続的開発		
Pólo de Difusão de Práticas Sustentáveis no Uso da Biodiversidade e com Base na Prevenção e Controle de Incêndios Florestais (270)	[5.6]	
持続的生物多様性利用及び森林火災予防と防火の普及拠点		

REDE SUDESTE

東南網

Transportes [17,930.2]
運輸

Aeroporto de Congonhas (076)

コンゴニャス空港

旅客ターミナル及び航空機給油タンク用面積の拡張；格納庫及び地上駐車場

Aeroporto da Pampulha (076)

バンブーリャ空港

旅客ターミナル、貨物ターミナル、及び滑走路への誘導部分拡張、航空機給油タンク用面積、格納庫及び地上駐車場

Aeroporto de Vitória (076)

ビトリア空港

ビトリア近郊これより指定する場所に新空港建設、或いは既存の空港設備を拡張

Aeroporto de Uberlândia (076)

ウベルランジア空港

旅客ターミナル、航空機用エプロン、及び航空機誘導路、及び国内貨物ターミナル

Aeroporto Internacional de Guarulhos (076)

グラルーリョス国際空港

及び航空機誘導路；

拡張：国内及び国際貨物ターミナル、旅客ターミナル、及び航空機用エプロン

Aeroporto Internacional de Viracopos (076)

ヴィラコッポス国際空港

拡張：国内及び国際貨物ターミナル、旅客ターミナル、及び航空機用エプロン

Aeroporto Santos Dumont (076)

サントス・ツモン空港

旅客ターミナル、及び航空機用エプロンの拡張；新国内貨物ターミナル

Porto de Vitória (313)

ヴィトリア港

コンテナ用ターミナル

Porto de Santos - Terminal de Grãos (317)

サントス港 — 穀物ターミナル

サントス港の影響力の大きい地域に建設される 10 万 m² の独自穀物ターミナル。具体的な場所はこれから決定

Porto de Sepetiba (313)

サベチーバ港

コンテナ用ターミナルに 8 つの船架の追加建設

Ferrovía Sul-Litorânea (313)

南一沿岸鉄道

カショエイロ・デ・イタベミリンからウブー港まで約 140km の狭軌単線鉄道の建設と当港の改善

Ferrovía do Aço (313)

鋼鉄鉄道

ジャセアバからバーラ・マンサまで 307km の区間の信号システム及び通信システムを改善、及び各 2km の横断区域を 5 つ建設

Ferrovía entre Barra Mansa e Barra do Pirai (313)

バーラ・マンサ — バーラ・ド・ピライ間鉄道

既存の操車場の拡張、及び信号システムと通信システムの改善 (48km)

Ferrovía São Paulo a Santos - Alternativa à Cremalheira (317)

サン・パウロ — サントス鉄道 — クレマリエイラの代替

クレマリエイラの代替として貨車及び転送サイロノバイブレーターを含む 8km の鉱石輸送コンベア建設

Ferrovía entre Araguari e Santos (319)

アラグアリー — サントス鉄道

837 km の改修 (根幹線路全域)、40km に渡り信号システム改善、及び合計 20km の横断区域 (サン・パウロ州モジ・グアス — カザプランカ区間)

Ferrovía da Linha São Paulo - Iperó - Santos (317)

サン・パウロ — イペロー — サントス 路線鉄道

サン・パウロからマイリンケまで 38km の第三線路建設

Linha na Rede Oeste-Santos (313)

西網 — サントス路線

アグアイー — ボッソス・デ・カウダス間 40km の改修及び 35km の路線設定

Malha Ferroviária Paulista, entre Bauru e Santos (319)

パウルー — サントス間パウリスタ鉄道網

単線 145km (マイリンケ — サントス間) のインフラストラクチャー及びスーパーストラクチャー、信号及び通信システムの改修、そしてパウルー — マイリンケ間 302km の危険な地点数箇所の回復

Ferrovia entre Cubatão e Santos (317)

クバトン — サントス間の鉄道

サントス港の右側に 23km の第三線路を建設

Alça de Floriano (313)

フロリアーの接続鉄道

全長 10km の単線により鋼鉄鉄道をリオ — サン・パウロ 路線に繋ぎ、サン・パウロ行きの列車を直接通過させる

Ferrovia entre Ibiá e Garças de Minas (313)

イピアー — ガルサス・デ・ミナス間鉄道

ミナス・ジェライス州タピライー — ブラチーニャ間、トンネル 1 つ、橋 10 本、2km の横断区域を含む 42km の単線による迂回路を建設

Transposição Ferroviária de Belo Horizonte (313)

ベロ・オリゾンテ鉄道ノバイパス建設

ベロ・オリゾンテ周辺に 18km の迂回路 (鉄道リング) を建設; 18km の単線は 4 本の橋、4km の横断区域を含む;

フロレスタル — マタドウロ間 7.9km、マタドウロ — カピタン・エドアルド間 10.1km

Pátios Intermodais do Corredor Rio de Janeiro - São Paulo (313)

リオ・デ・ジャネイロ — サン・パウロ間 コンテナ輸送の接続中間点を 2 箇所建設; 推奨場所: リオ・デ・ジャネイロ州ゼロベジカ及びサン・パウロ州イタクアケセツバ

Ferrovia entre Cubatão e Conceiçãozinha (317)

クバトン — コンセイソンジーニャ間鉄道

新信号システム区間 18km、横断区域 6km、操車場 2 つ

Ferrovia entre Santos e Campinas (317)

サントス — カンピーナス間鉄道

コンテナ輸送用に構造改造、及び線路と電気システムの改善 — 70km の都市区域とトンネル (サン・パウロ横断)、139km の新配電システム、信号システムの改善 (サントス — ジュンジアイー) を含む

Ligação Ferroviária entre Campo Limpo Paulista e Engenheiro Manoel Feio/SP

サンパウロ州のカンポ・リ (317)

ンポ・パウリスタとエンジェネイロ・マノエル・フェイオを結ぶ鉄道

混合線路間隔、及び単線の 63km の新路線

Ligação Ferroviária entre Vila Califórnia e Evangelista de Souza/SP (319)

ヴィーラ・カリフォルニア — エヴァンジェリスタ・デ・ソウザを結ぶ鉄道

混合線路間隔、及び単線の 45km の新路線

SP-150 e SP-160 (317)

州道 SP-150 号 及び SP-160 号

サン・パウロ — サントス間のイミグランテ自動車道の山脈地帯 18km の 3 車線の下り坂を建設; 7.5km のトンネルと 4.7km の高架道を含む

SP-270 e SP-127 (317)

州道 SP-270 号 及び SP-127 号

ソロカーバからイタベチニンガ及びカバン・ポニートまで、53km のメンテナンスと再舗装と約 70km の路線設定

BR-040/MG (313)

国道 BR-040 号/ミナス・ジェライス州

ベロ・オリゾンテ — ジュイス・デ・フォーラ間の自動車道 238km の複線化

BR-393/RJ (313)

国道 BR-393 号/リオ・デ・ジャネイロ州

ボルタ・レドンダ — アレン・バライーバ間の自動車道 199km の複線化

BR-116/SP (317)

国道 BR-116 号/サン・パウロ州

ジャカレイー — サン・ジョゼー・ドス・カンボス間 18km、4 車線から 6 車線に幅拡大

BR-381/MG (313)

国道 BR-381 号/ミナス・ジェライス州

ベロ・オリゾンテ — ジョアン・モンレバーデ間の自動車道 207km の複線化

BR-050/GO (313)

国道 BR-050 号/ゴイアス州

アラグアリー — ウベラーバ間 (ゴイアス—ミナス・ジェライス州境からミナス・ジェライス — サン・パウロ州境まで) の自動車道 207km の複線化

SP-348 (317)

州道 SP-348 号

カンピーナスからリメイラまで 6 車線ノバンデイランテス自動車道を 56km 延長

SP-322 (319)

州道 SP-322 号

ベドウドロ — セルトンジーニョ間 (州道 SP-326 号から州道 SP-333 号まで) の自動車道 56km の複線化

BR-262/BR-494/MG (313)

国道 BR-262 号/国道 BR-494 号/ミナス・ジェライス州

国道 BR-262 号 (ベチン — ノバ・セラーナ間) 89km 及び BR-494 号 (ノバ・セラーナ — ディヴィノポリス間) 33km、合計 122km の複線化

Rodoanel de São Paulo (317)

サン・パウロ環状線

サン・パウロ都市圏に全長 161km、6 車線の環状線を建設。そのうち 32km はすでに契約済み

RJ-109 (313)

州道 RJ-109 号

サベチーバ港と国道 BR-116 号及び BR-040 号を結ぶ 4 車線自動車道を建設

BR-364/MG (317)

国道 BR-364 号/ミナス・ジェライス州

ゴイアス州とミナス・ジェライス州の州境とミナス・ジェライス州コメンダドール・ゴーマス市を結ぶ自動車道 210km の舗装

Contorno Rodoviário Norte de Belo Horizonte (313)

ベロ・オリゾンテ北部の外縁道

ベロ・オリゾンテ北部合計 25km の自動車道の建設、或いは改修

BR-101/RJ (313)

国道 BR-101 号/リオ・デ・ジャネイロ州

リオ・デ・ジャネイロ州リオ・ポニートからリオ・デ・ジャネイロ州とエスピリト・サント州の州境まで(250 km)の国道 BR-101 号を複線化

BR-101/ES

国道 BR-101 号/エスピリト・サント州

リオ・デ・ジャネイロ州とエスピリト・サント州の州境からエスピリト・サント州ジョアン・ネイバまで(240 km)の国道 BR-101 号を複線化

ENERGIA
エネルギー**UTE Paulínia (219)**

パウリーニア火力発電所

サン・パウロ州パウリーニア市にガス火力発電所 (630MW) を建設；ガスはポリビアーブラジルガスパイプラインより供給

UTE Duque de Caxias (219)

ツーク・デ・カシアス火力発電所

リオ・デ・ジャネイロ州に位置したガス火力発電所 (1100MW) を建設

UTE Gabriel Passos (219)

ガブリエル・パソス火力発電所

ミナス・ジェライス州ガブリエル・パソスの石油精製所に位置したガス火力発電所 (720 MW) を建設

UTE Eletropaulo I & II (219)

エレクトロパウロ I & II 火力発電所

サン・パウロ市に位置したガス火力発電所 (900MW) を建設；ガスはポリビアーブラジルガスパイプラインより供給

UTE Rio I (219)

リオ I 火力発電所

リオ・デ・ジャネイロ市に位置したガス火力発電所 (720MW) を建設；ガスはカンボス海上石油基地より供給

UTE BTB I (219)

BTB I 火力発電所

リオ・デ・ジャネイロ州マカエ市に位置したガス火力発電所（480MW）を建設；ガスはカンボス海上石油基地より供給

Angra III (219)

Angra III 原子力発電所

リオ・デ・ジャネイロ州アングラ・ドス・レイス市に位置した 1309MW の原子力発電所

UTE Norte Capixaba (219)

エスピリト・サント州北部 火力発電所

エスピリト・サント州サン・マテウス市に位置したガス火力発電所（150MW）を建設；ガスはこれから設置される海上石油基地より供給

UTE Norte Fluminense (219)

リオ・デ・ジャネイロ州北部 火力発電所

リオ・デ・ジャネイロ州カンボス市周辺に位置した天然ガス火力発電所（700MW）を建設

UTE Cabiúnas (219)

カピウーナス 火力発電所

リオ・デ・ジャネイロ州ボルタ・レドンダ市周辺に位置した天然ガス火力発電所（480MW）を建設

UTE PIE 3 & 4 (219)

PIE 3 & 4 火力発電所

リオ・デ・ジャネイロ市周辺に位置した 2 つの PIE（電力独立生産者）天然ガス火力発電所（450MW）を建設

UTE Cubatão (219)

クバトン火力発電所

サン・パウロ州クバトン市周辺に位置した天然ガス火力発電所（800MW）を建設

UTE Bom Jardim (219)

ボン・ジャルジン 火力発電所

リオ・デ・ジャネイロ州ボン・ジャルジン市周辺に位置した天然ガス火力発電所（800MW）を建設

UTE Santa Branca (219)

サンタ・ブランカ火力発電所

サン・パウロ州サンタ・ブランカ市周辺に位置した天然ガス火力発電所（1000MW）を建設

UTE Vitória (219)

ビトリア火力発電所

エスピリト・サント州ビトリア市周辺に位置した天然ガス火力発電所（500MW）を建設

UHE Funil Grande (219)

フニール・グランデ水力発電所

ミナス・ジェライス州ベルドンエス市のグランデ川に位置した水力発電所（180MW）を建設

UHE Aimorés (219)

アイモレーズ水力発電所

ミナス・ジェライス州アイモレーズ市のドーセ川に位置した水力発電所（396MW）を建設

UHE Pilar (219)

ピラール水力発電所

ペロ・オリゾンテ市東に位置したピランガ川に水力発電所（150MW）を建設

UHE Irapé (219)

イラペー水力発電所

ジェキチヨンヤ川に位置した貯水池を持つ水力発電所（360MW）を建設

UHE Bocaina (219)

ボカイーナ水力発電所

バラナイーバ川のゴイアス州ダビノポリス郡及びアバジア郡、ミナス・ジェライス州ドウラドス郡の境界線地点に、調整用貯水池を持った調整蓄積発電の水力発電所（150MW）を建設

UHE Capim Branco I (219)

カピン・ブランコ I 水力発電所

ウベルランジア市に近いアラグアリー川に、水力発電所（306MW）を建設

UHE Capim Branco II (219)

カピン・ブランコ II 水力発電所

アラグアリー市に近いアラグアリー川に、210MW の能力と調整貯水池を持つ水力発電所

LT de Curitiba a São Paulo (219)

クリチーバ — サン・パウロ間送電線

500Kv、350km の送電線（第 1 回路）及び変電所サン・パウロの電力供給センター（イビウーナ変電所）とリオ・デ・ジャネイロに電力を送る

LT de Tijuco Preto a Angra (219)

チジュコ・プレットーアングラ間送電線

500kV、120kmの送電線でチジュコ・プレット変電所とアングラ変電所を結び、アングラの電力をリオ・デ・ジャネイロの電力供給センターへ送る

LT de Montes Claros a UHE Irapé (219)

モンテス・クラロスーイラペー水力発電所間送電線

345kV、145kmの送電線(第1回路)とそれに関連した変電所によりイラペー水力発電所と送電網を繋ぐ

LT de Angra a Adrianópolis / Grajaú / São José (219)

アングラーアドリアノボリス/グラジャウーサン・ジョゼー間送電線

500kV、84kmの送電線(第2回路)でアングラ変電所とアドリアノボリス/グラジャウーサン・ジョゼーの変電所を結び、アングラの電力を南と東南の送電網強化のために供給する

Telecomunicações

遠距離通信

Telefonia Fixa (201) [13,900.0]

固定電話

新ターミナル1500万設置

Telefonia Pública (201) (205) [415.0]

公衆電話

新ターミナル32万設置

Telefonia Móvel (203) [6,400.0]

携帯電話

新アクセス1140万設置

Comunicação de Dados (204) [148.0]

データ処理

新アクセス9.3万設置

Radiochamada (Paging) (204) [330.0]

ポケットベル(Paging)

新アクセス230万設置

Trunking (204) [124.0]

Trunking

新アクセス42.7万設置

Conexão entre Belo Horizonte e Rio de Janeiro (204) [40.0]

ベロ・オリゾンテーリオ・デ・ジャネイロ間の接続

2.5 Gbpsの光ケーブルによる接続を自動車道ケーブルで行う

Conexão entre Rio de Janeiro e Vitória (204) [25.0]

リオ・デ・ジャネイロービトリア間の接続

2.5 Gbpsの光ケーブルによる接続を海底ケーブルで行う

Conexão entre Rio de Janeiro e Vitória (204) [25.0]

リオ・デ・ジャネイロービトリア間の接続

10 Gbpsの光ケーブルによる接続を海底ケーブルで行う

Conexão entre São Paulo e Belo Horizonte (204) [48.0]

サン・パウローベロ・オリゾンテ間の接続

2本の2.5 Gbpsの光ケーブルによる接続を自動車道ケーブルで行う

Conexão entre São Paulo e Rio de Janeiro (204) [21.4]

サン・パウローリオ・デ・ジャネイロ間の接続

10 Gbpsの光ケーブルによる接続をサントスを経由した海底ケーブルで行う

Conexão entre São Paulo e Rio de Janeiro (204) [55.0]

サン・パウローリオ・デ・ジャネイロ間の接続

3本の2.5 Gbpsの光ケーブルによる接続を自動車道ケーブルで行う

Conexão entre Belo Horizonte e Brasília (204) [31.0]

ベロ・オリゾンテーブラジリア間の接続

2.5 Gbpsの光ケーブルによる接続を自動車道ケーブルで行う

Conexão entre São Paulo e Campo Grande (204) [45.0]

サン・パウローカンボ・グランデ間の接続

2.5 Gbpsの光ケーブルをジュンジャイ、カンピーナス、サン・カルロス及びパウルーを経由させ、この間は鉄道に沿って配線し、パウルーーカンボ・グランデ間はガスパイプラインを利用する可能性が高い

Conexão entre Vitória e Salvador (204) [60.0]

ビトリア — サルバドル間の接続
2.5 Gbps の光ケーブルによる接続を海底ケーブルで行う

Conexão entre Vitória e Salvador (204) [60.0]

ビトリア — サルバドル間の接続
10 Gbps の光ケーブルによる接続を海底ケーブルで行う

Desenvolvimento Social
社会開発

EDUCAÇÃO (095) (099) (102) [623.9]

教育
基礎教育の保証

基礎教育を終了せず、通学していない 7 歳から 14 歳までの児童を対象とした奨学金
生徒数 56.3 万人

基礎教育を終了していない 15 歳から 24 歳までの青少年を対象とした特別プログラム
生徒数 18.9 万人

14 歳以上でいまだに基礎教育を受けている少年を対象としたクラス
生徒数 200 万人

2000 年～2007 年の期間に対する受け入れ可能な生徒数の増加
160 万席

基礎教育のための教員資格を持たない代用教員の能力養成
教員 5.1 万人

SAÚDE (183) (198) (174) (189) (088) [831.8]

保健
保健の普遍的利用の保証

家庭保健プログラム及び保健普及員
2000/02 年 - 住民の 50% を対応: 3200 万人
2003/04 年 - 住民の 70% を対応: 4600 万人
2005/06 年 - 住民の 80% を対応: 5400 万人
2007 年 - 住民の 100% を対応: 6800 万人

風土病、衛生、環境、伝染病、流行病コントロール
2007 年までの対象住民数: 6800 万人

病院ベッド数
現在の不足数及び 2000～2007 年の推定需要を満たすための 5.6 万台

医師
現在の不足数及び 2000～2007 年の推定需要を満たすための 16000 名

HABITAÇÃO (348) (347) (345) [540.6]

住居
最低給料の 3 倍以下の収入の家庭への住居の提供
1997～2007 年の推定需要を満たすための新住居 61.7 万戸

SANEAMENTO (341) [1,309.4]

衛生
すべての住居に対する上下水道の普及とゴミ収集の拡大

Água

上水
すべての住居に対する水供給
現在の不足数及び 2000～2007 年の推定需要を満たすための 500 万戸

Esgoto

下水
下水網の拡大—現在の都市住居の 70%に拡大
2007 年までに 400 万戸対応

Lixo

ゴミ
ゴミ収集システムを拡大し全住居の 85%までに対象を拡大
2007 年までに 460 万戸対応

Meio Ambiente
環境

Ecoturismo Local Integrado (256) (254) (272) [5.8] 統合的環境ツアー		
Pólos Ecoturísticos em Parques Nacionais (256) (272) [64.0] 国立公園における環境ツアー拠点		
Expansão da Base Florestal (280) [604.0] 森林地帯拡大		
Redução de Emissões Veiculares e Industriais em Regiões Metropolitanas Saturadas (274) [130.0] 大都市の飽和地域における交通及び工業排気ガスの減少		
Gestão Integrada da Bacia do Rio Paraíba do Sul (275) [800.0] パラíba・ド・スール川流域の統合的管理		
Agenda Positiva para o Uso Sustentável dos Recursos Pesqueiros Marinhos (284) [56.0] 海産資源の持続的利用に関するポジティブ・スケジューリング		
Pólo de Difusão de Práticas Sustentáveis (Reconstituição da Mata Atlântica/Centro de Referência Ambiental; Mudança de Padrões de Uso Doméstico dos Recursos Hídricos) (270) [8.4] 持続的活動の普及拠点 (大西洋沿岸原生林の改修 / 環境照会センター；水資源の家庭利用基準の変更)		

Informação e Conhecimento [305.0]
情報と知識

Requalificação Profissional (304) 職業資格取得 特に大都市において職業資格取得を促進する		
Desenvolvimento de Serviços (046) (248) (250) (304) サービス開発 教育、保健、科学・技術開発、金融、海外貿易、観光、及び文化産業等の近代的サービスをめざした研究、開発、及び人材育成；競争性革新をめざした研究、開発、及び人材育成		
Logística (046) (248) ロジスティック ロジスティックに関する研究、開発、人材育成		
Desenvolvimento Industrial (046) (248) (304) (250) 工業開発 当地方及び全国の工業のより高い競争性を目的とした人材育成、研究、及び開発；科学と技術の盛んな活動による工業開発の奨励		
Desenvolvimento do Turismo (248) (256) (304) 観光開発 人材育成、管理プロセスの改善、市場情報に対するより高い頻度のアクセス、及び観光宣伝		
Incubadoras e Parques Tecnológicos (037) インキュベーター及び技術パーク ハイレベル技術のマイクロ企業の設立と開発を目指したインキュベーター及び技術パークの樹立		

EIXOS DO SUL- SUDOESTE E SUL

南枢軸-南西及び南

Transportes [12,832.7]
運輸

Aeroporto de Londrina (076)

ロンドリーナ空港

これから選択される場所に空港を建設

Aeroporto de Navegantes (076)

ナベガンテス空港

サンタ・カタリーナ州ナベカンテス市近辺のこれから選択される場所に空港を建設

Aeroporto Internacional Salgado Filho - Porto Alegre (076)

サルガード・フィーリョ国際空港 — ボルト・アレグレ

拡張：滑走路、国内及び国際貨物ターミナル

航空タクシーの新滑走路

Aeroporto Internacional Afonso Pena - Curitiba (076)

アフォンソ・ペーナ国際空港 — クリチーバ

新滑走路及び誘導路

国内貨物ターミナル及び国際空港対応のための航空機エプロンの拡張

Porto de Paranaguá (314)

パラナグアア港

穀物ターミナルの一部をコンテナ操作用に適合させ、喫水を 11.8m から 12.4m に増加させるのに必要なアクセス運河及び戻り流域の浚渫

Porto do Rio Grande (314)

リオ・グランデ港

ドックのクレーン用単一船架を持った荷下ろし用ターミナル

Eclusas no Reservatório de Itaipu (314)

イタイプーダムの水門

5キロの運河を持った水門（3つか4つ）を建設

Barragem e Eclusa de Santa Maria da Serra (317)

サンタ・マリア・ダ・セーラのダムと水門

ピラシカーバ川にダムを建設し PCH（小規模水力発電所）と水門建設に役立て、航海を可能にする。サン・パウロ州アニエンビーに2つの水上・鉄道・自動車道ターミナルを建設する

Malha Ferroviária Sul (314)

南鉄道網

鉄道路盤の保全、364km のレール交換、オウリンヨス — ボンタ・グロッサ間（単線、メートル法の線路間隔）の信号システム増加

Malha Ferroviária Paulista, entre Panorama e Adamantina (319)

パノラーマ — アダマンチーナ間パウリスタ鉄道網

TR-37 線路を TR-57 線路に交換する 96km のスーパーストラクチャー改修

Malha Ferroviária Paulista, entre Bauru e Itirapina/SP (319)

サン・パウロ州バウル — イチラピナ間パウリスタ鉄道網

路線 166km のインフラストラクチャー及びスーパーストラクチャー改善、及び各 2km の 8 つの横断区域を建設

Malha Ferroviária Paulista, entre Presidente Epitácio e Presidente Prudente/SP

サン・パウロ州プレジデンテ・エピターシオ — プレジデンテ・ブルデンテ間パウリスタ鉄道網

線路交換、信号及び通信システム改善等、路線 96km のスーパーストラクチャー改修 (319)

Ferrovia entre Cascavel e Foz do Iguaçu e entre Cascavel e Guaíra/PR (314)

パラナ州カスカベル — フォス・ド・イグアスー間、及びカスカベル — グアイーラ間の鉄道

単線、メートル法の線路間隔、350km の新路線建設。次の 2 区分で構成される。カスカベル — フォス・ド・イグアスー間(179 km)、及びカスカベル — グアイーラ間の鉄道(170 km)。600m の橋、12km のサイドライン、全長に渡る信号システム

Ferrovia entre Santa Fé do Sul e Campinas (317)

サンタ・フェー・ド・スール — キンピーナス間鉄道

216km に渡るレールと枕木の交換（サンタ・フェー・ド・スール — サン・ジョゼ・ド・リオ・プレット間）及び 117km に渡りインフラストラクチャー及びスーパーストラクチャー改善（イチラピーナ — キンピーナス間）

Armazéns em Rubinéia (314)

ルビネーアの倉庫

倉庫と自動車道・水上・鉄道ターミナル接続中間点を建設

Ramal Ferroviário a Montante da Eclusa de Barra Bonita (317)

バーハ・ポニータの上流への鉄道支線

サン・パウロ州アルテミスからピラシカーバまで鉄道支線を広軌線路で建設 (20km)

Ferrovía entre Guaíra e Cianorte (314)

グアイーラ — シアノルテ間鉄道

単線、狭軌、150kmの新路線建設。約1kmの橋、8kmのサイドライン、信号システムを含む。南鉄道網とバラナ州シアノルテ市を結ぶ

Malha Ferroviária Sul, entre Curitiba e Paranaguá (314)

クリチーバ — バラナグアー間南鉄道網

既存の路線の迂回路102kmの単線建設。その他4kmのサイドライン、全長を通じて信号及び通信システム

Malha Ferroviária Sul, entre Ponta Grossa e Engenheiro Bley (314)

ポント・グロッサ — エンジェネイロ・ブレイ間南鉄道網

路盤の改修と改善、単線の62km間のレール交換

Malha Ferroviária Sul, entre Guarapuava, Engenheiro Gutierrez e Ponta Grossa

グアラプアーバ、エンジェネイロ・グチエーレス、ポント・グロッサ間南鉄道網 (314)

121kmのレール改善、150kmの単線の路線設定、600mの橋建設、操車場2つ、合計271km

Malha Ferroviária Sul, entre Lajes, Roca Sales e General Luz (314)

ラージェス、ロッカ・サーレス、ジェネラル・ルース間南鉄道網

351kmの単線路線の改修。

Terminal Intermodal em Santa Terezinha de Itaipu (314)

サンタ・テレジーニャ・ド・イタイプーに接続中間点

ターミナル一つ、埠頭一つ、倉庫2つ建設

Acesso Ferroviário ao Terminal em Santa Terezinha de Itaipu (314)

サンタ・テレジーニャ・ド・イタイプーアクセス鉄道

21kmの単線鉄道に新しいコネクションを建設

Acesso Rodoviário ao Terminal em Santa Terezinha de Itaipu (314)

サンタ・テレジーニャ・ド・イタイプーアクセス道路

23km単線自動車道を建設

Terminais no Rio Paraná (319)

バラナ川ターミナル

バラナ川に、南マット・グロッソ州トレス・ラゴアス郡、バタグアス郡、ロザーナ郡 (ポルト・プリマベラ港) に位置する3つのターミナルを建設

SP-225 (314)

州道 SP-225 号

州道 SP-280 号からサン・パウロ州オウリーニョス市まで49kmを複線化

BR-369/PR (314)

国道 BR-369 号/バラナ州

オウリーニョス市からイビボラン市まで133kmを複線化

SP-270 (319)

州道 SP-270 号

オウリーニョス市からプレジデンテ・エピターシオ市まで276kmを複線化、内100kmの路線設定

国道 BR-277/PR (314)

国道 BR-277 号/バラナ州

バラナ州サンタ・テレジーニャ・ド・イタイプー — カスカベル間122kmの自動車道を複線化

Ponte sobre o Rio Paraná (319)

バラナ川上流橋梁

バラナ川上流に自動車及び列車用600mの橋梁建設。ジュピアーダムの近辺、南マット・グロッソ州とサン・パウロ州の州境において国道 BR-262 号、州道 SP-300 号、西鉄道網等を対応

BR-317/PR (314)

BR-317 号/バラナ州

バラナ州カンボ・モウラン — マリンガ間86kmの複線化及び5つの信号付き交差点の変更

BR-369/PR e BR-376/PR (314)

国道 BR-369 号/バラナ州 及び 国道 BR-376 号/バラナ州

バラナ州のアラボンガス — アブカラナ間、及びマリンガ — バラナバイ間146kmの複線化

SP-225 (319)

州道 SP-225 号

サン・パウロ州ジャウー — ベデメイラス間13kmの複線化

BR-153/SP-MG (313)

国道 BR-153 号/サン・パウロ州—ミナス・ジェライス州
イセム — プラタ間 139km 複線化、及び信号付き交差点 3 つの変更

PR-272 (314)

州道 PR-272 号
クリウバー — シケイラ・カンボス間 34km の再舗装、追い越し車線を 12km に渡り追加、単車線 60km の再整理、400m の新橋梁建設

MS-276/395 (319)

州道 MS-276/395 号
南マット・グロッソ州の州道 MS-276/395 号、バタグアス — バタイリポラン間 90km の舗装

MS-164/386/156/295 (319)

州道 MS-164/386/156/295 号
南マット・グロッソ州の州道 MS-164/386/156/295 号、ポンタ・ポラン — エルドラード間 300km の改修

BR-101/SC (314)

国道 BR-101 号/サンタ・カタリーナ州
フロリアノポリス — ジョインピーレ間 144km 間、4 車線から 6 車線に幅拡大、及び立体交差接続点 4 つ改修

RS-324 (314)

州道 RS-324 号
バツソ・フンド — サン・レオポルド間 40km の自動車道の複線化、10km、4 車線のトンネル建設、10km の自動車道の再整理、立体交差接続点 3 つ建設

BR-290/RS (314)

国道 BR-290 号/リオ・グランデ・ド・スール州
オゾーリオ — ボルト・アレグレ間 93km の自動車道を 4 車線から 6 車線に幅拡大

BR-280/SC (314)

国道 BR-280 号/サンタ・カタリーナ州
サン・ベント・ド・スール — サン・フランシスコ・ド・スール間 110km 自動車道の複線化

BR-116 号/RS (314)

国道 BR-116 号/リオ・グランデ・ド・スール州
サン・レオポルド — カマクアン及びジャグアラン間 360km 自動車道の複線化

BR-470/SC (314)

国道 BR-470 号/サンタ・カタリーナ州
リオ・ド・スール — イタジャイー間 120km 自動車道の複線化、及び 20 の信号付き立体交差接続点改修

RS-135 (314)

州道 RS-135 号
エレシン — バツソ・フンド間 80km 自動車道の複線化

BR-471/RS (314)

国道 BR-471 号/リオ・グランデ・ド・スール州
ペロータス — リオ・グランデ間 35km 自動車道の複線化

BR-290/RS (314)

国道 BR-290 号/リオ・グランデ・ド・スール州
ボルト・アレグレ — ウルグアイアーナ間 600km 自動車道の複線化

Ponte sobre o Rio Uruguai na RS-472 (314)

州道 RS-472 号のウルグアイ川上流橋梁
州道 RS-472 号のウルグアイ川上流 (サンタ・ローザ) に 400m の橋梁を建設

Energia
エネルギー

UHE Piraju (219)

ピラジュール水力発電所
ピラジュール市に近いバラナバナマ川に、水力発電所 (70MW) を建設

UHE Tijuco Alto (219)

チジュウコ・アルト水力発電所
バラナ州とサン・パウロ州の州境のリベイラ・ド・イグアベ川に、水力発電所 (144MW) を建設

UHE Funil Ribeira (219)

フニール・リベイラ水力発電所
サン・パウロ州イグアベ市近辺のリベイラ・ド・イグアベ川に、水力発電所 (150MW) を建設

UHE Dona Francisca (235)

ドナ・フランシスカ水力発電所

ポルト・アレグレ市の西に位置するたジャクイー川に、水力発電所（125MW）を建設

UHE Jataizinho (235)

ジャタイジーニョ水力発電所

ロンドリーナ市の南に位置するたチバジー川に、水力発電所（156MW）を建設

UHE Garabi (235)

ガラビー水力発電所

アルゼンチン-ブラジル国境のウルグアイ川に位置するた両国水力発電所プロジェクト。

水力発電所の能力は 1500MW、うちブラジルに 750MW

UHE Barra Grande (235)

バーラ・グランデ水力発電所

リオ・グランデ・ド・スール州バカリア市の南に位置したたチバジー川に、水力発電所（690 MW）を建設

UHE Campos Novos (235)

カンポス・ノボス水力発電所

カンポス・ノボス市に近接したカノアス川に、水力発電所（880MW）を建設

UHE Salto Pilão (235)

サルト・ピロン水力発電所

サンタ・カタリーナ州ブルメナウ市に近接したイタジャイアスー川に、水力発電所（220MW）を建設

UHE Cebolão (235)

セボロン水力発電所

チバギ川のバラナ州ロンドリーナ市に近接した位置に、水力発電所（156 MW）を建設

UHE São Jerônimo (235)

サン・ジェロニモ水力発電所

チバギ川のサン・ジェロニモ・ダ・セーラ郡に近接した位置に、水力発電所（284MW）を建設

UHE Mauá (235)

マウア水力発電所

チバギ川のオルテケイラ市に近接した位置に、水力発電所（388MW）を建設

UHE Telêmaco Borba (235)

テレマコ・ボルバ水力発電所

チバギ川のテレマコ・ボルバ市に近接した位置に、水力発電所（112MW）を建設

UTE Candiota III (235)

カンジオッタ III 火力発電所

リオ・グランデ・ド・スール州バジェー市に木炭による火力発電所（350MW）を建設

UTE Jacuí (235)

ジャクイー 火力発電所

ポルト・アレグレ市南 80km に位置するた木炭による火力発電所（350MW）を建設

UTE Seival I & II (235)

セイバル I & II 火力発電所

リオ・グランデ・ド・スール州バジェー市とペロッタス市の中間の位置に木炭による火力発電所を建設。プロジェクトは 2 段階に分けられ、各 200MW、合計能力 400MW

UTE Carvão PIE - I & II (235)

カルボン PIE - I & II 火力発電所

350MW の発電ユニット 2 基を持つ木炭による火力発電所、合計能力 700MW — PIE —（電力独立生産者）

UTE Três Lagoas (232)

トレス・ラゴアス火力発電所

南マット・グロッソ州トレス・ラゴアス市周辺に天然ガス火力発電所（750MW）を建設

UTE Araucária (235)

アラウカリア火力発電所

バラナ州アラウカリア市に位置したガス火力発電所（444MW）を建設；ガスはポリピアーブラジルガスパイプラインより供給

UTE Joinville (235)

ジョインビレー火力発電所

サンタ・カタリーナ州ジョインビレー市に 600MW た天然ガス熱による混合サイクル発電所を建設。2つのタービンを持ち、内1つは蒸気タービン

UTE Triunfo (235)

トリウンフォ火力発電所

南マット・グロッソ州トリウンフォ市に天然ガス火力発電所（700MW）を建設

LT Porto Primavera a Sumaré (235)

ポルト・プリマベラ — スマレー間送電線

440 kV、631 km の送電線でポルト・デ・プリマベラ水力発電所とサン・パウロとリオ・デ・ジャネイロの電力供給センターを結ぶ；ポルト・プリマベラ — タクアルスー間（第2回路）は117km、タクアルスー — アシス間（第2回路）は182km、アシス — スマレー間（第1回路）は332km

LTs de Cascavel a Maringá (235)

カスカベル — マリンガ間送電線

230kV（第1回路）の一連の送電線で全長282km及び変電所により南と東南の送電網を強化する。マリンガ — ウムアラマ間147km、ウムアラマ — カスカベル間135km；現在別138kVの別な回路が存在し、稼働を続ける

LT da UHE Itaipu a Tijuco Preto (235)

イタイプー — チジュコ・プレト間送電線

750kV、910kmの第3回路送電線でイタイプ水力発電所とサン・パウロ州チジュコ・プレト市を結ぶ；途中、変電所のアップデートを行う

LT de Garabi a Itá (235)

ガラビ — イター間送電線

500kV（第1回路）、全長360km ガラビ水力発電所と南と東南の送電網を結ぶ。

LTs UHE Salto Caxias à UHE Salto Santiago e Cascavel (235)

サルト・カシアス水力発電所 — サルト・サンチアゴ水力発電所間送電線

500kV（第1回路）、2区間で構成され、サルト・カシアス水力発電所を南の送電網に繋ぐ；サルト・カシアス — サルト・サンチアゴ間は90km、サルト・カシアス — カスカベル間は63km

LT Campos Novos a Blumenau (235)

カンポス・ノボス — ブルメナウ間送電線

500kV（第1回路）の送電線で全長252km、中間変電所を経由し、カンポス・ノボス水力発電所を南と東南の送電網に繋ぎガラビ水力発電所プロジェクトとの接続を継続する

LT Candiota a Gravataí (235)

カンジオータ — グラバタイ間送電線

500 kV、300 km の送電線でカンジオータ火力発電所とポルト・アレグレ市を繋ぐ

LT Batéias a Ibirorã (235)

バテイアス — イビポラン間送電線

230 kV、372 km の送電線でバテイアス変電所とイビポラン変電所を繋ぎ、チバギ川に沿った4つ新発電所プロジェクト（テレマコ・ポルバ、マウアー、サン・ジェロニモ、セポロン、ジャタイジーニョ）に接続する

LT Uruguaiana a Alegrete (235)

ウルグアイアーナ — アレグレテ送電線

230 kV（第1回路）、140 km の送電線でウルグアイアーナ火力発電所と南送電網（アレグレテ変電所）を繋ぐ

LTs Cachoeira do Sul II a Dona Francisca e Santa Cruz (235)

カショエイラ・ド・スール II — ドーナ・フランシスカ、サンタ・クルース間送電線

2本の230 kV（第1回路）送電線でドーナ・フランシスカ — カショエイラ・ド・スール間81km、及びサンタ・クルース — カショエイラ・ド・スール間50km

LT São Borja a Santo Ângelo (235)

サン・ボルジャ — サント・アントニオ間送電線

230kV（第1回路）、160 km の送電線でサント・アンジェロとサン・ボルジャの電力供給センターを繋ぎ、送電網を強化する

LT Presidente Médici a Pelotas (235)

プレジデンテ・メージシ — ペロタス間送電線

230kV、130 km の送電線でプレジデンテ・メージシとペロタスの電力供給センターを繋ぎリオ・グランデ・ド・スール州にたいする電力供給を改善する

Telecomunicações
遠距離通信

Telefonia Fixa (201) [4,000.0]

固定電話
新ターミナル 560 万設置

Telefonia Pública (201) (205) [198.1]

公衆電話
新ターミナル 15.5 万設置

Telefonia Móvel (203) [3,200.0]

携帯電話
新ターミナル 560 万設置

Comunicação de Dados (204) [73.0]

データ処理
新アクセス 4.6 万設置

Radiochamada (Paging) (204) [88.4]

ポケットベル (Paging)
新アクセス 610 万設置

Trunking (204) [58.5]

Trunking
新アクセス 20.1 万設置

Conexão entre Porto Alegre e Curitiba (204) [24.0]

ポルト・アレグレー クリチーバ間の接続
2.5 Gbps の光ケーブルによる接続を自動車道ケーブルで繋ぎ、オソリオ、クリシウーマ、フロリアノポリス、ジョインビレを経由する

Conexão entre Curitiba e São Paulo (204) [60.0]

クリチーバ サン・パウロ間の接続
2.5 Gbps の光ケーブルによる接続を自動車道ケーブル及び鉄道ケーブルで繋ぐ

Conexão entre Curitiba e São Paulo (204) [37.0]

クリチーバ サン・パウロ間の接続
2.5 Gbps の光ケーブルによる 2 本の接続を自動車道ケーブルで繋ぐ可能性が高い

Desenvolvimento Social
社会開発

EDUCAÇÃO (095) (099) (102) [2,835.0]

教育
基礎教育の保証
基礎教育を終了せず、通学していない 7 歳から 14 歳までの児童を対象とした奨学金
生徒数 32.5 万人
基礎教育を終了していない 15 歳から 24 歳までの青少年を対象とした特別プログラム
生徒数 8.9 万人
14 歳以上でいまだに基礎教育を受けている少年を対象としたクラス
生徒数 79.7 万人
2000 年~2007 年の期間に対する受け入れ可能な生徒数の増加
86.9 万席
基礎教育のための教員資格を持たない代用教員の能力養成
教員 3.2 万人

SAÚDE (183) (198) (174) (189) (088) [3,602.5]

保健
保健の普遍的利用の保証
家庭保健プログラム及び保健普及員
2000/02 年 - 住民の 50% を対応: 1630 万人
2003/04 年 - 住民の 70% を対応: 2350 万人
2005/06 年 - 住民の 80% を対応: 2750 万人
2007 年 - 住民の 100% を対応: 3490 万人
風土病、衛生、環境、伝染病、流行病コントロール
2007 年までの対象住民数: 3490 万人

病院ベッド数
現在の不足数及び2000~2007年の推定需要を満たすための2.8万台

医師
現在の不足数及び2000~2007年の推定需要を満たすための8000名

HABITAÇÃO (348) (347) (345) [3,521.3]

住居

最低給料の3倍以下の収入の家庭への住居の提供
1997~2007年の推定需要を満たすための新住居37.2万戸

SANEAMENTO (341) [6,387.1]

衛生

すべての住居に対する上下水道の普及とゴミ収集の拡大

Água

上水

すべての住居に対する水供給
現在の不足数及び2000~2007年の推定需要を満たすための370万戸

Esgoto

下水

下水網を拡張、現在の都市住居の18%から60%に拡大
2007年までに290万戸対応

Lixo

ゴミ

ゴミ収集システムを拡大し全住居の75%までに対象を拡大
2007年までに270万戸対応

Informação e Conhecimento [405.0]

情報と知識

Desenvolvimento do Turismo (264) (248) (304)

観光開発

特に大都市におけるビジネス観光、娯楽テーマパーク、スポーツ、国境観光等を目指した人材育成、管理プロセスの改善、市場情報に対するより高い頻度のアクセス、及び観光宣伝

Logística (046) (248)

ロジスティック

ロジスティックに関する研究、開発、人材育成

Desenvolvimento Industrial (046) (248) (304) (250)

工業開発

工業のより高い競争性を目的とした人材育成、研究、及び開発、特に石油化学、運送材料、繊維、履き物、金属・機械産業等

Desenvolvimento Agropecuário e Agroindustrial (248) (006) (049) (007)

農業畜産、アグロインダストリー開発

より高い付加価値を持った農業畜産産物生産を目指した人材育成、研究、及び開発

Desenvolvimento de Serviços (046) (248) (250) (304)

サービス開発

大都市におけるソフトウェア開発、保健、教育、及び文化産業等の近代的サービスをめざした研究、開発、及び人材育成

Incubadoras e Parques Tecnológicos (037)

インキュベーター及び技術パーク

ハイレベル技術のマイクロ企業の設立と開発を目指したインキュベーター及び技術パークの樹立

Meio Ambiente

環境

Ecoturismo Local Integrado (264) (254) (272) [11.6]

統合的環境ツアー

Pólos Ecoturísticos em Parques Nacionais (264) (272) [72.0]

国立公園における環境ツアー拠点

Expansão da Base Florestal (280) [730.0]

森林地帯拡大

- Gestão Integrada da Bacia dos Rios Tietê e Piracicaba (276) [740.0]**
チエテ川及びピラシカーバ川流域の統合的管理
- Pólo de Difusão de Práticas Sustentáveis (Área de Influência do Parque Nacional de Foz do Iguaçu; Prevenção e Recuperação da Erosão do Solo) (270) [5.6]**
持続的活動の普及拠点 (フォース・ド・イグアスー国立公園の影響地域；土壤侵食防止及び改修)
- Raças Nativas de Animais Domésticos (266) [**
家畜の自然種類
- Recuperação de Áreas em Processo de Desertificação (265) (276) [15.0]**
砂漠化進行地域の改修
- Recuperação da Floresta de Araucárias (280) [50,0]**
アラウカーリア森林の改修
- Gestão Integrada da Bacia do Rio Uruguai (276) [200.0]**
ウルグアイ川の統合的管理
- Agenda Positiva para o Uso Sustentável dos Recursos Pesqueiros Marinhos (284) [56.0]**
海産資源の持続的利用に関するポジティブ・スケジューリング
- Pólo de Difusão de Práticas Sustentáveis (Recursos Hídricos do Sul e Noroeste Rio-Grandense e de Santa Catarina; Gestão de Espaços Costeiros e Marinhos na Região da Lagoa dos Patos e do Litoral de Santa Catarina; Agroindústrias na Região de Chapecó) (270) [8.4]**
持続的活動の普及拠点 (南地方、リオ・グランデ・ド・スール州北西部、サンタ・カタリーナ州の水資源；ラゴア・ドス・パトス及びサンタ・カタリーナ州沿岸、及び海域の管理；シャベコー地方のアグロインダストリー)
- Utilização Sustentável de Palmeiras Nativas e Adaptadas (265) (270) [10.0]**
原生林及び適応する椰子の木の持続的利用

PROGRAMAS E GERENTES

Ministério da Agricultura e do Abastecimento

GESTÃO DA POLÍTICA AGROPECUÁRIA

Gerente: **ANGELO BRESSAN FILHO** (001)
Cargo: Diretor Localização: Secretaria de Política Agrícola
Telefone: 61 225-2785 Fax: 61 226-1927
E-mail: abressan@agricultura.gov.br

FOMENTO À EQUIDEOCULTURA

Gerente: **ANTONIO CARLOS MOTTA** (002)
Cargo: Gerente de Programa Localização: Secretaria de Apoio Rural e Cooperativismo
Telefone: 61 218-2677 Fax: 61 218-2727
E-mail: julio@agricultura.gov.br

CESTA DE ALIMENTOS

Gerente: **AURINO VALOIS JÚNIOR** (003)
Cargo: Técnico de Operações Localização: Secretaria de Política Agrícola
Telefone: 61 312-6224/26 Fax: 61 226-1518
E-mail: conab.supri@tba.com.br

PRODUTIVIDADE DE CEREAIS

Gerente: **BEATRIZ DA SILVEIRA PINHEIRO** (004)
Cargo: Pesquisadora Localização: EMBRAPA – Arroz e Feijão
Telefone: 62 833-2206 Fax: 62 833-2100
E-mail: beatriz@cnpaf.embrapa.br

DESENVOLVIMENTO DOS CERRADOS – PROCEDER

Gerente: **CARLOS HENRIQUE DE CARVALHO** (005)
Cargo: Técnico/Assessor Localização: Secretaria de Apoio Rural e Cooperativismo
Telefone: 61 225-4538 Fax: 61 224-2755
E-mail: cique@agricultura.gov.br

ERRADICAÇÃO DA FEBRE AFTOSA

Gerente: **DENISE EUCLYDES MARIANO DA COSTA** (006)
Cargo: Médico Veterinário Localização: Secretaria de Defesa Agropecuária
Telefone: 61 218-2735 Fax: 61 323-5936
E-mail: denise@defesaagropecuaria.gov.br

AGRICULTURA DE PRECISÃO

Gerente: **EVANDRO CHARTUNI MANTOVANI** (007)
Cargo: Pesquisador Localização: 31 779-1088
Telefone: 31 779-1105 Fax: 31 779-1088
E-mail: evandro@cnpms.embrapa.br

DESENVOLVIMENTO DA PESCA

Gerente: **GEOVANO MILTON DE OLIVEIRA** (008)
Cargo: Coordenador-Geral Localização: Secretaria Executiva
Telefone: 61 321-4362 Fax: 61 224-5049
E-mail: dpa-pesca@defesaagropecuaria.gov.br

PRODUÇÃO E ABASTECIMENTO ALIMENTAR

Gerente: **GILTON SABACK MALTEZ** (009)
Cargo: Superintendente/Técnico de Planejamento Localização: Companhia Nacional de Abastecimento –
Telefone: 61 312-6259 Fax: 61 225-6468
E-mail: conabsudem@tba.com.br

PRODUTIVIDADE DA AVICULTURA

Gerente: **HAMILTON RICARDO FARIAS** (010)
Cargo: Médico Veterinário Localização: Secretaria de Defesa Agropecuária
Telefone: 61 226-0890 Fax: 61 226-3446
E-mail: hamilton@defesaagropecuaria.gov.br

DESENVOLVIMENTO DAS REGIÕES PRODUTORAS DE CACAU

Gerente: **HILTON KRUSCHEWSKY DUARTE** (011)
Cargo: Diretor Localização: SEPLAC
Telefone: 61 342-1883 Fax: 61 343-1118
E-mail: hkduarte@ceplacdf.gov.br

PRODUTIVIDADE DO ALGODÃO E DE OUTRAS FIBRAS

Gerente: **ILTO ANTONIO MORANDINI** (012)
Cargo: Coordenador Localização: Secretaria de Defesa Agropecuária
Telefone: 61 218-2700 Fax: 61 225-4211
E-mail: cpp@defesaagropecuaria.gov.br

PRODUTIVIDADE DA SUINOCULTURA

Gerente: **JAMIL GOMES DE SOUZA** (013)
Cargo: Médico Veterinário Localização: Secretaria de Defesa Agropecuária
Telefone: 61 218-2232 Fax: 61 323-5936
E-mail: difa-sda@defesaagropecuaria.gov.br

PRODUÇÃO DE BORRACHA NATURAL

Gerente: **JOÃO CARLOS MONTEIRO DE CARVALHO** (014)
Cargo: Assistente Localização: Secretaria de Apoio Rural e Cooperativismo
Telefone: 61 218-2145/2462 Fax: 61 321-4524
E-mail:

QUALIDADE DOS INSUMOS AGRÍCOLAS

Gerente: **JOSE MARÇAL DOS SANTOS JÚNIOR** (015)
Cargo: Fiscal de Defesa Agropecuária Localização: Secretaria de Apoio Rural e Cooperativismo
Telefone: 61 218-2319 Fax: 61 218-2319
E-mail: marcaljunior@uol.com.br